

大学院案内 2026

中村学園大学大学院

Nakamura Gakuen University Graduate School

栄養科学研究科 Graduate School of Nutritional Sciences

教育学研究科 Graduate School of Education

流通科学研究科 Graduate School of Business, Marketing and Distribution

フードビジネスプログラム(修士課程)

2026年4月開設(設置届出中)



能力と自信に満ちた グローバルリーダーを目指して。

本学の大学院は建学の精神にある「日本人としての自覚を持ち、清節の風をたっとび、感恩の情にとみ、労作にいそしむ」、「形は心の現れである」、「学問と生活の融合を重んじ教育と研究に努める」に則り、それぞれの分野の最新の情報と手法を駆使して、実験・調査・解析・討論・考察・執筆・公表を重ね、より専門的な知識を深めています。

生涯学習・高度学習時代と言われる近年、その役割を担うべく、本学の3研究科では、研究フロンティアの拡張にも引き続き邁進してまいります。学術の発展、研究力の向上を通して社会の発展に貢献し、活躍するグローバルリーダーを目指す皆様をお待ちしています。

学長(医学博士) 久保千春

沿革／中村学園大学大学院・中村学園大学・中村学園大学短期大学部

1953年 12月	学校法人中村学園 設立認可
1954年 4月	福岡高等栄養学校開校
1957年 4月	中村栄養短期大学(栄養科)開学
1958年 3月	中村栄養短期大学開学に伴い福岡高等栄養学校を廃止
1965年 4月	中村学園大学(家政学部)開学
1967年 4月	中村栄養短期大学を中村学園短期大学に、栄養科を食物栄養科に名称変更 中村学園短期大学家政科開設 中村学園大学付属あさひ幼稚園開園
1969年 4月	中村学園短期大学幼児教育科開設
1979年 4月	中村学園大学付属香岐幼稚園開園
1990年 4月	中村学園大学大学院 栄養科学研究科 栄養科学専攻(修士課程)開設
1998年 4月	中村学園短期大学を中村学園大学短期大学部に名称変更
2000年 4月	中村学園大学流通科学部流通科学科開設
2001年 4月	中村学園大学短期大学部家政科を家政経済科に名称変更
2002年 4月	中村学園大学家政学部食物栄養学科を栄養科学部栄養科学科[管理栄養士課程]に、家政学部児童学科(児童学専攻・児童教育学専攻)を人間発達学部人間発達学科(幼児発達学専攻・児童発達学専攻)に改組
2004年 4月	中村学園大学大学院 栄養科学研究科 栄養科学専攻(博士後期課程)開設 中村学園大学大学院 流通科学研究科 流通科学専攻(修士課程)開設 中村学園大学短期大学部幼児教育科を幼児保育科に名称変更
2005年 4月	中村学園大学大学院 人間発達学研究科 人間発達学専攻(修士課程)開設
2007年 4月	中村学園大学短期大学部食物栄養科を食物栄養学科に、幼児保育科を幼児保育学科に名称変更 中村学園大学短期大学部家政経済科をキャリア開発学科に改組
2011年 4月	中村学園大学人間発達学部人間発達学科(幼児発達学専攻・児童発達学専攻)を教育学部児童幼児教育学科に改組
2015年 4月	中村学園大学大学院人間発達学研究科人間発達学専攻を教育学研究科教育学専攻に名称変更
2017年 4月	中村学園大学栄養科学部フード・マネジメント学科 開設
2024年	学園創立70周年



福岡学園跡地を大学校舎建築へ整地
1964年(昭和39年)初頭頃



大学校舎風景 1971年(昭和46年)頃



中村学園大学大学院

専門的な知識と
確かな技術を備えた
プロフェッショナルへ

Contents

■学長あいさつ・沿革	01
■構成(組織、取得学位・免許)	03
■栄養科学研究科	04
栄養科学研究科〈博士前期課程〉	05
栄養科学研究科〈博士後期課程〉	09
■教育学研究科	12
■流通科学研究科	18
■各種支援制度	23
■入学試験日程/納付金関係	24
■施設・設備	25

■フードビジネスプログラムについては、別冊のパンフレットまたは本学Webサイトをご確認ください



栄養科学研究科

本学の「食」に関する長い伝統と実績を基盤として最先端の栄養科学を教授する高度専門教育機関

P.04



教育学研究科

確かな理論とすぐれた実践力を備えた教育・保育の専門家の養成

P.12



流通科学研究科

専門知識と的確な判断力を持つ流通ビジネスのリーダーとなる人材を育成

P.18

構 成

一人ひとりのさらなる知的好奇心に応えるため、大学院では栄養科学、教育学、流通科学の3つの最先端の研究を行い、将来は研究者や専門家として明日の社会を担います。
また、勉強の必要性を感じる社会人のニーズに応じて、昼夜開講制を取り入れています。



※専修免許の取得については、取得の基礎となる一種免許を有していることが必要となります。

栄養科学研究科

本学の「食」に関する長い伝統と実績を基盤として、最先端の栄養科学を教授する高度専門教育機関



◆学びのPOINT

博士前期課程 ▶ P.05

教育目標

栄養科学研究科博士前期課程は、機能栄養科学、健康・病態栄養科学、食品科学の各専門分野において、食を通じて人々の健康増進に貢献することができる高度専門職業人、研究者並びに教育指導者を育成します。

特色

機能栄養科学、健康・病態栄養科学、食品科学の各専門分野において、食を通じて人々の健康増進に貢献することができる高度専門職業人、研究者並びに教育指導者の育成を目的としています。栄養科学に関する幅広い知識及び各部門の専門的知識と技能を教授するとともに、実験・実習、演習により知識と技能の統合を図り、修士論文作成により主体的に課題解決できる力を持った人材の育成を図ります。さらに、中学校・高等学校（家庭）及び栄養教諭の専修免許取得のための教職課程科目を開設し、昼夜開講制により社会人が学修できる教育課程を編成しています。

博士後期課程 ▶ P.09

教育目標

栄養科学研究科博士後期課程は、機能栄養科学、健康・病態栄養科学、食品科学の各専門分野において、広く社会に貢献できる自立した研究者並びに栄養科学実践者を育成します。

特色

機能栄養科学、健康・病態栄養科学、食品科学の各専門分野において、広く社会に貢献できる自立した研究者並びに栄養科学実践者の育成を目的としています。栄養科学に関する高度な幅広い知識及び各系の高度な専門的知識と技能を教授するとともに、博士論文作成を支援して、研究者として自立して活動し、高度な専門業務に従事できるグローバルな視点を持った人材の育成を図ります。さらに、研究科主催のワークショップ、特別講演会、セミナーへの参加及び国際学会などでの研究成果の発表を推進することにより、国際社会におけるコミュニケーション能力及び情報発信能力を育成します。

研究科長挨拶



栄養科学研究科 研究科長 [加藤 正樹]

栄養科学研究科では、食を通じて人々の健康増進に貢献できる、高度な専門知識および優れた研究能力を有する人材の育成を目指して、研究教育を行っています。博士前期課程は、機能栄養科学部門、健康・病態栄養科学部門、食品科学部門の3部門とこれを構成する7分野により成り立っています。より高度な研究を行う博士後期課程は、機能栄養科学系、健康・病態栄養科学系、食品科学系の3学系により構成されています。大学院修了者は、教育職員、病院職員、公務員、食品会社の総合職などさまざまな分野で栄養科学の専門家として活躍しています。これからも、より高いレベルな栄養科学領域の研究教育の達成を目指していきます。

◆学びの方針

3つのポリシー(令和7年度現在)

◇アドミッション・ポリシー

栄養科学研究科博士前期課程(以下、「本前期課程」という)は、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーを踏まえ、次のような人物を広く受け入れます。

1. 大学において栄養科学に関する科目を修得した人、もしくは同等の栄養科学に関する知識・技能を有する人
2. 多様な考えや価値観を持った人々と協働することができる人
3. 食を通じた健康増進に関わる課題に対して、基本的な倫理観をもって誠実に取り組む意欲のある人
4. 食や栄養に関する諸問題に関心を持っている人

◇カリキュラム・ポリシー

本前期課程は、ディプロマポリシーに掲げた資質・能力を修得するため、教育課程編成・実施の方針を以下のように定めます。

1. 栄養科学における専門的な知識を身に付け、体系的に理解するために、選択の専門科目(特論)及び部門横断型の必修科目「栄養科学総合講義」を配置する。
2. 栄養科学における専門的な知識を活用して健康維持に貢献できる技能及び課題解決のための論理的思考力やコミュニケーション能力を身に付けるため、必修の実験・実習科目及び演習科目を配置する。
3. 「特別研究」では、栄養科学分野における研究課題の解決に取り組み、修士論文を作成するとともに、食を通じた健康増進に取り組む真摯な態度と食や栄養に関する者としての健全な倫理観を涵養する。
4. 社会人学生に配慮した教育課程を編成する。

◇ディプロマ・ポリシー

本前期課程は、次のような資質・能力を有すると認められた者に修士(栄養科学)の学位を授与します。

1. 栄養科学における専門的な知識を身に付け、体系的に理解する能力を有している。
2. 栄養科学における専門的な知識を活用し、食を通じた健康増進に貢献できる技能を身に付けている。
3. 栄養科学における課題を解決する論理的思考力とコミュニケーション能力を身に付けている。
4. 食を通じた健康増進に貢献しようとする真摯な態度と食や栄養に関する者としての健全な倫理観を身に付けている。
5. 栄養科学分野における研究課題を理解し、研究課題の解決に向けた行動・実験に取り組む能力を身に付けている。

◆◆ 在学生からのMessage

食で人々の健康に貢献したい

大学の卒業研究で実験を進めるうちにもっと深く研究を行いたいと思い大学院に進学しました。大学院では身近な人ががん罹患したことがきっかけで抗がん作用に興味を持ち、加えて抗炎症作用、抗認知作用を有する柑橘果皮や黒しょうが根茎に含まれているポリメトキシフラボン類の代謝や生理活性について研究を行っています。さらに授業ではより専門的な知識を様々な切り口から多面的に学ぶことができます。将来は身近な人はもちろん、沢山の人の対して食事から健康を作り出せるような人になりたいです。

◆学びの部門

カリキュラム(令和7年度現在)

部 門	授業科目	単位数	
		必修	選択
共通	栄養科学総合講義	4	
	栄養科学実験・実習	2	
	栄養統計学演習	1	
	運動健康増進演習	1	
	栄養療法演習	1	
	栄養管理演習	1	
	特別研究	12	
機能栄養科学	栄養生化学特論		2
	栄養内分泌学特論		2
	栄養生理学特論		2
	栄養形態学特論		2
健康・病態栄養科学	臨床栄養学特論		2
	疾病予防特論		2
	栄養治療学特論		2
	健康増進科学特論		2
	栄養疫学特論		2
	遺伝子栄養学特論		2
	薬膳健康科学特論		2
	食機能栄養学特論		2
	食品科学特論		2
食品科学	食品機能学特論		2
	食品安全学特論		2
	食品科学特論		2
教職科目	栄養教育特論		2
	栄養教育特論演習		2
	教育心理学特論		2
	発達心理学特論		2
	教育臨床心理学特論		2
	家族発達支援論		2

※令和7年5月現在のカリキュラムです。変更となる可能性があります。



栄養科学研究科 博士前期課程

富田 希望さん

◆ 学びの成果

修士論文テーマ一覧(2020年度～2024年度)

	修士論文テーマ	部門(分野)
2020 (令和2)年度	テトラメトキシフラボンによるがん細胞浸潤抑制並びに消化管腫瘍に及ぼす効果	機能栄養科学(栄養生理・形態学)
	認知症グループホームに入居する高齢者の食事内容と身体機能評価	健康・病態栄養科学(臨床栄養学)
	中国保育所幼児における栄養素等摂取状況と生活習慣と腸内細菌叢との関連	健康・病態栄養科学(薬膳・食機能科学)
2021 (令和3)年度	健康増進センター健康栄養クリニックに登録された肥満女性の食品・栄養素等摂取量および潜在的腎臓酸負荷	健康・病態栄養科学(臨床栄養学)
	健康若年成人における歩行、低速度ジョギングおよびバランスボールによる座位行動の中断が食後血糖・脂質動態に及ぼす影響	健康・病態栄養科学(健康増進科学)
	高校・大学女子陸上長距離選手の月経状況と利用可能エネルギー量および栄養素等摂取量・加速度計を用いた客観的身体活動評価による検討	健康・病態栄養科学(健康増進科学)
2022 (令和4)年度	ポリメトキシフラボンが消化管ポリプモデルマウスに及ぼす効果	機能栄養科学(栄養生理・形態学)
	植物由来成分のtrimethoxyflavon類の代謝に関する研究	食品科学部門(環境栄養学)
	脾臓の肥大や造血系異常を呈するAPC遺伝子変異マウスに対するポリメトキシフラボンの影響	機能栄養科学部門(栄養生理・形態学)
	APC遺伝子変異マウスの肝糖代謝におけるテトラメトキシフラボンの効果	機能栄養科学部門(栄養生理・形態学)
	幼児を対象にした視覚教材と個別インタビューを用いた減塩に関する新たな食育指導プログラム:食育前後における減塩意識の変化	健康・病態栄養科学部門(臨床栄養学)
	若年女性に対するソーシャルメディアを用いた栄養教育が食行動及び栄養素等摂取量に与える影響:ランダム化比較試験	健康・病態栄養科学部門(臨床栄養学)
	若年成人女性における日常身体活動指標と身体活動レベルおよび血糖・脂質マーカーの関連性:二重標識水法を用いた検討	健康・病態栄養科学部門(健康増進科学)
	若年成人女性における中強度・高強度有酸素性運動が食欲調節ホルモンおよび喫食に及ぼす影響	健康・病態栄養科学部門(健康増進科学)
	食事パターンを用いた軽度認知障害に関する栄養因子の探索	健康・病態栄養科学部門(健康増進科学)
2023 (令和5)年度	代謝異常を呈するモデルマウス群に対するNobiletinの生体内での効果	機能栄養科学(栄養生理・形態学)
	地域在住高齢者の口腔機能及び食品摂取多様性スコアの実態:健康者・フレイル・要介護者の比較	健康・病態栄養科学(臨床栄養学)
	経皮的動脈酸素飽和度(SpO ₂)の漸増運動負荷時の応答とSpO ₂ 閾値の妥当性:乳酸性作業閾値を基準とした検討	健康・病態栄養科学(健康増進科学)
2024 (令和6)年度	柑橘果皮成分Sinensetinの代謝に関する研究	食品科学(環境栄養学)
	5,6,7,3',4',5'-Hexamethoxyflavone (HexaMF)の生体内動態に関する研究	食品科学(環境栄養学)
	葉酸欠乏モデルラットの作出ならびに難消化性オリゴ糖の摂取による葉酸欠乏改善効果	健康・病態栄養科学(薬膳・食機能科学)

◆ 目指す将来

就職実績一覧(順不同・法人等表示は省略)

進学

栄養科学研究科博士後期課程、九州大学大学院生物資源環境科学府博士後期課程

(管理)栄養士

病院・医院 国立病院機構九州グループ、福岡労働衛生研究所、福岡大学筑紫病院、シーサイド病院、大牟田市立病院、川島整形外科病院、千早病院、長崎リハビリテーション病院、西野病院、福岡大学西新病院、古賀文敏ウィメンズクリニック、のだ皮膚科・アレルギークリニック、飯塚病院

受託給食 中村学園事業部

公務員 福岡市、古賀市

教員

大学 中村学園大学、九州女子大学、長崎国際大学、福岡女子大学、広島修道大学

短大 中村学園大学短期大学部、精華女子短期大学、九州女子短期大学

専門学校 平岡学園、三幸学園

その他

製造 一番食品、再春館製菓所、ダイショー、ピエトロ、ホクト、マルボシ酢、宮島醤油、久原本家グループ本社

卸売 トーホー、BGG Japan

その他 ベターホーム協会、国立健康・栄養研究所、アサヒ緑健

◆◆◆ 修了生からのMessage

大学院での学び、経験の全てが私の力になっています

私は科学的な根拠をもって栄養指導ができる管理栄養士になりたいと思い大学院へ進学し、ストレスと脳機能に関する研究を行いました。卒業後は急性期病院に就職した後、回復期・慢性期を主とする病院へ転職。多職種とのコミュニケーションの重要性を感じながら日々業務にあたっています。

2年間という限られた時間の中で、授業、研究、学会発表、論文執筆など並行して行い、忙しくも充実した日々を過ごすことができました。大学院で学び・経験した全てのことは、管理栄養士としてだけでなく、社会人としての基礎も養われ、現在の業務に活かすことができている。今後も「努力の上に花が咲く」の精神を忘れず、日々精進していきたいと思っています。



2019(令和元)年度 栄養科学研究科 博士前期課程 修了
医療法人相生会 福岡みらい病院

川崎 理香子さん

◆学びの内容

各分野の研究内容

機能栄養科学部門

◇分子栄養学分野

生化学の発展はめざましく、これまでに別々に発展してきた医学、薬学、農学、栄養学などの生物関連諸科学を統合し、新たな学問を形成しつつあります。さらに最近の生化学は、分子生物学を柱にして、細胞生物学、発生生物学などを合併して基礎生命科学を形成しつつあります。栄養学の分野においても、この傾向は如実に現れつつあり、栄養に関する諸問題を細胞レベル、遺伝子レベル、分子レベルで解き明かそうという時代になってきました。

分子栄養学分野では、基礎生命科学としての生化学を基に栄養学に関する諸問題、とりわけ生活習慣病の分子レベルにおける解明に向けて、以下のような研究に取り組んでいます。

1. 野菜や果物に含まれるリコピン、カロテノイド、ビタミン等の抗酸化作用の生体内における作用の分子レベルでの解明
2. 動脈硬化予防に果すHDLの役割
3. 植物の細胞化食品摂取によるメタボリックシンドローム予防の機序解明

◇栄養生理・形態学分野

栄養学は、本来、食物と人間のかかわり合いの学問です。したがって、人体の構造と機能を見失っては栄養も食品も食文化も成立しません。ことに、栄養素摂取の場である消化器系の正常時、病態時の構造と機能、さらには、吸収された栄養素を運ぶ体液、血液循環とのかかわり合い、さらには、諸器官における栄養の意義を、構造と機能の面、すなわち、解剖生理学的立場から考究します。

栄養形態学では、細胞一般の微細構造を電子顕微鏡的に研究し、生理学的現象の形態学的基盤を研究します。特に、消化管における消化吸収機構を分子栄養形態学的立場より研究します。

栄養生理学においては、より人体を中心にした栄養を理解するために、マクロ的には栄養素、ミネラル、水などの生理学的意義を、ミクロ的には細胞レベルでの栄養素の吸収、代謝、蓄積、排泄等と関連した細胞膜の機能の特性を研究します。

健康・病態栄養科学部門

◇臨床栄養学分野

臨床栄養学についてもっと深く学びたい、あるいは自ら研究してみたいという管理栄養士やその他の方々の希望に応えるため、臨床栄養学分野では次の様な事項について重点をおき、教育・研究を行っています。

1. 疾病と栄養学：肥満症、癌、血栓症、骨粗鬆症、認知症などの発症と予防に重要な役割を果たす栄養学について教育・研究します。
2. 上記疾患の病態と治療について臨床的研究を行い、栄養クリニックなどで実地教育をします。
3. ヒトの健康の維持と、その破綻による発病に関する高度な知識を自学自習する能力を身につけるよう指導します。

◇健康増進科学分野

わが国は、世界で冠たる長寿国となったが、健康維持の観点から種々の問題が明らかになってきました。基礎体力の低下、長寿ではあっても疾病を抱えた寝たきりの生活、若い世代の乱れた生活習慣などです。健康増進科学分野では、健康水準を維持増進する観点から、医学、疫学、栄養学、運動生理学、運動心理学の知識に立脚し、栄養、運動、休養を柱とし、生活習慣病をはじめとする疾病の予防や、さらに積極的な健康の増進について、教育し研究するものです。したがって対象はきわめて広いが、現在行っている教育、研究は次の通りです。

1. 食生活の調査とライフスタイルの健康への影響の調査
2. 栄養疫学的及び分子生物学的アプローチ
3. 身体活動評価や体力測定と運動処方など運動生理学的アプローチ

◇薬膳・食機能科学分野

薬膳・食機能科学分野における「食と栄養」、「健康と栄養」に関わる栄養科学の教育・研究は、食を通して、人々の健康の維持・増進及び生活習慣病などの疾病予防に貢献することを目的とし、特に、「食」と「ヒト」に主体をおいた研究を目指すものです。

特に、健康増進や疾病予防のために、個人の体質に適合した食材の組み合わせ等、薬食同源の理念から中国伝統医学に端を発する日本古来の健康食としての薬膳科学の開発・推進を視野に入れた研究を行うものです。

食品科学部門

◇食品機能学分野

食品機能学分野においては食品に対して、一次機能としての栄養性、二次機能としての嗜好性に加え、三次機能である食品の生理調節機能（抗酸化性、発ガン抑制作用、糖・脂質代謝改善作用など）が目玉されるようになりました。この生理調節機能を発現する本体や作用機構の解明、それに基づく新規食品の開発に際して、試験管レベル、細胞レベル及び動物レベルでの評価が強く要望されています。このため、食品素材のもつ生理活性を発現する化学的成分を化学的に追究して食品素材を見直すとともに、先端加工技術によって付加価値を高めた新規食品の開発を行います。一方、食品廃棄残渣の有効活用も大きな課題となっており、その化学的成分と嗜好性や生理特性との関連を明らかにします。

◇環境栄養学分野

最近、世界的な交通網の発達により、人および食品の地球規模での移動は非常に容易になりました。わが国では輸入食品が激増しており、そのため、世界各地の「食と環境」の問題は直ちにわが国の「食と環境」の問題となります。実際、人は食品とともに、農薬、ダイオキシン類、有害重金属などの環境汚染物質を摂取しています。環境栄養学分野では、ダイオキシン類などの有害な有機化合物を中心に、それらの生体内動態を調べ、毒性発現機構を明らかにします。また、有益な食品成分（特に、フラボノイド類）にも注目し、これらの生体内動態を調べるとともに、生理活性物質を探索します。

修士論文指導担当教員一覧(2025年度)

部門	分野	担当教員	テーマ
機能栄養科学部門	分子栄養学	河手久弥	生活習慣病の発症を予防するためには、中高年期だけでなく、胎児期、小児期、青年期における対策も重要であることが明らかになっている。各ライフステージにおける生活習慣病発症予防、そして健康寿命の延伸にどのような因子が重要であるかを解明することを目指す。 1) 若年女性における血糖値変動(特に食後高血糖)に関与する因子の同定 2) 若年女性の体組成に寄与する因子の同定 3) 高齢糖尿病患者におけるサルコペニア・フレイルの評価および食事・運動介入効果に関する検討
		信久幾夫	全ての血液細胞を産み出す造血幹細胞は、胎生中期の大動脈周辺領域に最初に生じる。この胎生期造血幹細胞の増殖・維持に関わる分子に注目して、分子機構を明らかにする。また、栄養飢餓状態に陥ると、細胞は自ら栄養を得るために自食作用のシステムを発動することが知られている。このシステム発動時に機能する分子に注目して、分子機構を明らかにする。
	栄養生理形態学	大和孝子	生活習慣病の発症には、ヒトを取り巻く様々な要因が挙げられるが、そのひとつにストレスがある。本研究室では「ストレスと栄養」を主たる研究テーマに、ストレスと食事摂取状況との相互作用、身体組成及び生活習慣との因果関係など多面的に検討する。また、ヒトが日常的に摂取する飲食物において精神的ストレス軽減作用を有する食品の探索及び生活習慣病の予防、改善を目的に、様々なストレス指標を用いて解析・検討する。
		日野真一郎	細胞内でのβ-カテンの異常な蓄積が、家族性大腸ポリポシス等の大腸がんの発症に深く関与している。Wnt/β-カテン経路依存性に生じる種々の大腸がん株を用いて、フラボノイドによる細胞増殖抑制効果を検討する。さらに、抑制効果の高いフラボノイドを用いて大腸がんモデル動物への効果を解析し、食物成分由来の安全な大腸がん抑制因子の探索を目指す。
健康・病態栄養科学部門	臨床栄養学	今井克己	寝たきり要介護高齢者に対する投与エネルギー量算定の基礎となる安静時エネルギー消費量を推定する式を作成する。腹部CT画像から内臓脂肪面積、皮下脂肪面積を算出し、寝たきり要介護高齢者の身体組成の評価を行う。さらに身体計測値ならびに血液データから栄養アセスメントを行い、寝たきり高齢者の最適BMIの検討を行う。
		加藤正樹	近年肥満によるインスリン抵抗性を背景としたメタボリックシンドロームの有病率は増大し、非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD) やその進行性の病態である非アルコール性脂肪肝炎 (NASH) の患者数も増大しつつある。NASHでは最終的に肝硬変や肝癌に至る可能性があり、肝臓内の脂質貯留制御機構の解明は極めて重要である。本科目では、メタボリックシンドロームが肝細胞機能に与える影響を、血液生化学を含む臨床データや疫学的データ、細胞レベルの実験などから多面的に解析し、栄養素と肝細胞の生理的機能との関連性を明らかにしていく。
		久保千春	食事、睡眠、運動などの生活習慣やストレスが病気の発症・経過に及ぼす影響について神経・内分泌・免疫連関から研究を行っている。食事については総カロリー及び炭水化物、タンパク質、脂肪の三大栄養素の摂取量が病気や免疫機能に及ぼす影響について明らかにする。
		野崎剛弘	睡眠障害は健康および社会職業生活に大きく影響する。最近、生活習慣病と睡眠の関わりが指摘されている。とくに肥満では睡眠障害を来たしやすく、逆に睡眠障害は肥満を助長し、糖代謝やQOLを悪化させる。一方、肥満者では甘味嗜好が強く、甘味品の摂取量が増えている。このように、肥満と睡眠障害や味覚は相互に関連し合っており、これらの関連性を理解することは、肥満の予防と治療戦略を開発する上で重要である。そのような前提に立って、肥満者に対して、減量治療前後で睡眠測定用デバイスを用いて客観的睡眠指標を測定し、甘味感を含む味覚との関連を調べる。交絡因子として心理的変数の関与を検討する。
	健康増進科学	安武健一郎	傷病者や高齢者に対する臨床栄養管理や、各ライフステージにおける栄養指導・教育を研究テーマとして、次のような内容を実施している。 1) 傷病者または高齢者の栄養管理に資する研究:これまで、呼吸器疾患、認知症、肥満症、フレイル、要介護の栄養管理について研究を実施。 2) バイオマーカーや栄養素等摂取量など栄養アセスメントを軸とした研究:24時間蓄尿法を用いた尿中排泄量を用いた減塩教育について研究を実施。
		近江雅代	低タンパク栄養状態の改善に効果的な栄養成分に関する生化学的ならびに栄養形態学的研究 低タンパク栄養は低アルブミン血症、筋肉量の減少、脂肪肝、免疫力の低下等、様々な身体的障害を引き起こす。一方、アミノ酸や中鎖脂肪酸(MCT)等の摂取は低栄養や免疫力の改善に効果を発揮する。そこで、実験的に低タンパク栄養状態を作製し、アミノ酸や脂肪酸等の栄養成分が生体に及ぼす影響について、検討を行う。
		森口里利子	月経前症候群(PMS)は女性のQOLのみならず、労働等の生産性の低下にも影響を与えることが報告されており、PMSによる経済損失は重要な課題となっている。女性の月経前症状に影響を及ぼす因子について、食事摂取状況や生活習慣等を中心に検討する。
		熊原秀晃	健康増進あるいは優れたスポーツ競技パフォーマンスを成就するためには、栄養と身体活動(トレーニング)が上手く協調してこそ最大の効果が期待できる。身体活動の側面において、運動の強度・時間・頻度やタイミングを考慮することは最良の効果を得る為の基礎となる。このような視点に立った身体活動支援は、栄養科学的側面からの健康づくりやスポーツ競技力向上のための支援とも密接に関連する。以上の観点より、運動生理学・体力科学的研究手法を用いたようなテーマを実施している。 1) 健康増進(疾病の予防・改善)、あるいは競技パフォーマンス向上のための身体活動評価法および身体活動支援法(運動処方法等)の開発・効果検証 2) ジュニアアスリートを含むスポーツ競技者の競技力向上と健康保持を両立するための食生活習慣の検討
	薬膳・食機能科学	田辺賢一	1) 食事性因子が認知症発症に及ぼす影響の検討 2) 食行動・食環境および食事パターンと生活習慣病に関する研究 日本を代表する疫学研究である「久山町研究」について、特に栄養学的要因と健康・疾病との関連を明らかにするために、栄養データの収集方法から精度管理、統計解析に至るまでの疫学的手法や疫学的思考を理解するとともに、栄養疫学に関する他の研究論文についてエビデンスレベルを踏まえて研究結果を評価する。
		川野光興	薬膳素材が、生活習慣病を始めとした様々な疾患の予防効果があることは知られているが、科学的に明らかになっていないことが多い。薬膳素材には、様々な食品成分ならびに栄養成分が含まれており、その中でも「食物繊維」を始めとした難消化性糖質に着目して研究に取り組んでいる。
食品科学部門	食品機能学	沖智之	ファイトケミカルは非栄養成分であるが、近年、健康の維持・増進に寄与する機能性成分として注目されている。本課程では、豆類やいも類などの植物性食品およびその加工食品に含まれるファイトケミカルについて、簡便な分析技術や高精度な分析法の開発を行う。また、それらの分析法を活用し、ファイトケミカルを多く含む食品の探索を進める。さらに、植物性食品の加工や貯蔵過程におけるファイトケミカルの保持および増強を目指した技術の開発にも取り組む。
		都甲潔	フードテックはフード(食)とテクノロジー(技術)を合わせて創った造語であるが、食にまつわる技術にとどまらず、近年のSDGsをはじめとする社会や経済の課題とも連携した総合的な科学技術と位置づけられる。この超高齢社会、そして多様化の増大した社会では、これまでの一般大衆を対象としたマスマーケティングから個人の嗜好や健康を反映した食のパーソナライズ化が要求される。つまり、健康増進と食事満足度を両立させたテララーメイド食の研究開発が必須となる。そこで、五感の科学技術の最後の関門である味覚と嗅覚の数値化・可視化の教育と研究を行う。
	環境栄養学	太田千穂	微生物は食中毒における原因物質として毎年90%以上を占めている。そのため、食中毒を防ぐため、喫食前に食品中の微生物数をできるだけ少量にしておくことが重要である。そこで当研究室では、新規抗菌法の開発や、細菌に感染するウイルスである「バクテリオファージ」を用いて、特定の病原細菌を標的とした殺菌技術の研究開発に取り組む。また、生鮮食品や腸内細菌から薬剤耐性菌および薬剤耐性遺伝子の検出を試み、塩基配列の解読により遺伝子型を解析する。 植物由来機能性成分の代謝に関する研究 食品成分の生体内での作用を評価するには、その機能性成分の体内動態を調べることは大変重要である。そこで当研究室では、植物由来成分、すなわちメキシ型フラボノイド類の生体内動態(吸収、代謝、排泄)に関する研究を行う。現在は、香酸柑橘果皮由来やマメ科由来の機能性成分について動物肝酵素による代謝を調べており、代謝物の同定を行っている。また、新規代謝物の有効性について抗酸化性や抗炎症性などの生理活性を検討する予定である。

◆ 学びの方針

3つのポリシー（令和7年度現在）

◇ アドミッション・ポリシー

- 栄養科学研究科博士後期課程（以下、「本後期課程」という）は、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーを踏まえ、次のような人物を広く受け入れます。
1. 栄養科学を専攻する博士前期課程あるいは修士課程において修了見込み、もしくは修士を取得した人、または同等の栄養科学に関する知識・技能を有する人
 2. 多様な考えや価値観を持った人々との共通点や違いを理解し、協働することができる人
 3. 食を通じた健康増進に関わる課題に対して、健全な倫理観をもって誠実かつ主体的に取り組む意欲のある人
 4. 食や栄養に関する諸問題とその解決策に強い関心を持っている人

◇ カリキュラム・ポリシー

- 本後期課程は、ディプロマポリシーに掲げた資質・能力を修得するため、教育課程編成・実施の方針を以下のように定めます。
1. 栄養科学における高度な専門的知識を身に付け、統合的に理解するために、学系横断型の必修科目「栄養科学概論」を配置する。
 2. 栄養科学における高度な専門的知識を活用して食を通じて広く社会に貢献できる技能及び複雑多様な課題解決のための論理的思考力やコミュニケーション能力を身に付けるため、各学系に概論科目を配置する。
 3. 各学系の「特別研究」では、栄養科学分野における研究課題の解決に向けた研究計画もしくは実行計画を立案・実施し、博士論文を作成するとともに、主体的に広い視野を持って社会に貢献しようとする真摯な態度と食や栄養に関する者としての高い倫理観を涵養する。
 4. 社会人学生に配慮した教育課程を編成する。

◇ ディプロマ・ポリシー

- 本後期課程は、次のような資質・能力を有すると認められた者に博士（栄養科学）の学位を授与します。
1. 栄養科学における高度な専門的知識を身に付け、統合的に理解する能力を有している。
 2. 栄養科学における高度な専門的知識を活用し、食を通じて広く社会に貢献できる技能を身に付けている。
 3. 栄養科学における複雑多様な課題を解決する論理的思考力とコミュニケーション能力を身に付けている。
 4. 食を通じて主体的に広い視野を持って社会に貢献しようとする真摯な態度と、食や栄養に関する者としての高い倫理観を身に付けている。
 5. 栄養科学分野における研究課題を自ら特定し、研究課題の解決に向けた研究計画もしくは実行計画を立案し実施する能力を身に付け、研究成果を発信できる能力を有している。

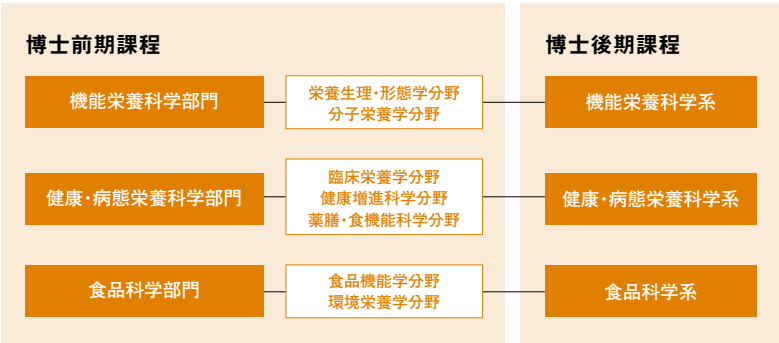
◆ 学びの部門

カリキュラム（令和7年度現在）

系	授業科目名	単位数	
		必修	選択
共通	栄養科学概論	4	
機能栄養科学	機能栄養科学特別研究		12
	機能栄養科学概論		2
健康・病態栄養科学	病態栄養科学特別研究		12
	病態栄養科学概論		2
食品科学	食品科学特別研究		12
	食品科学概論		2



栄養科学研究科 博士前期課程と博士後期課程の関連図



◆◆◆ 在学生からのMessage

現代社会における人々の健康に貢献したい

私は、若年成人女性を対象に身体活動支援法の開発の基盤的研究に取り組んでいます。この研究から、若い世代からの生活習慣病の予防法の提案に繋げることを目標としています。

大学院では、自身の研究を探究するだけでなく、各専門分野の先生方の講義や院生との交流を通して多様な視点から考察することができます。さらに、学外との共同研究や学術学会への参加を通して他大学の先生や大学院生との交流も刺激になります。

様々な情報が飛び交う現代社会において、身体活動と栄養面から科学的根拠に基づきヒトの健康に還元できる人材になれるよう日々邁進していきます。



栄養科学研究科 博士後期課程
相川 響さん

◆学びの成果

博士論文テーマ一覧(2013年度～)

博士論文テーマ		部門(分野)
2013 (平成25)年度	Discontinuation of leisure time impact-loading exercise is related to reduction of a calcaneus quantitative ultrasound parameter in young adult Japanese females: a 3-year follow-up study (体育の授業以外で行っていたインパクト運動の中止は若年日本人女性の踵骨定量的超音波骨量低下に関連する:3年間の追跡調査)	健康・病態栄養科学
	Effects of dietary genistein on hormone-dependent rat mammary carcinogenesis induced by ethyl methanesulphonate. (エチルメタンサルフォネート誘発ホルモン依存性乳がんに対する食餌性ゲニステインの効果)	健康・病態栄養科学
	Anti-proliferative and apoptosis-inducing activity of lycopene against three subtypes of human breast cancer cell lines (リコペンによる乳癌細胞のサブタイプ別増殖抑制およびアポトーシス誘導作用の機序解析)	健康・病態栄養科学
	Antiproliferative and Apoptosis-inducing Activity of Nobiletin against Three Subtypes of Human Breast Cancer Cell Lines (ノビレチンによる乳癌細胞増殖抑制およびアポトーシス誘導作用の機序解析)	健康・病態栄養科学
2017 (平成29)年度	Differential Anticancer Activity of Pterostilbene Against Three Subtypes of Human Breast Cancer Cells (サブタイプ別乳癌細胞に対するプテロシルベンの抗腫瘍効果の検討)	健康・病態栄養科学
2018 (平成30)年度	Comparison of anthocyanins, proanthocyanidin oligomers and antioxidant capacity between cowpea and grain legumes with colored seed coat (Food Science and Technology Research) (有色ササゲ豆および豆類のアントシアニン類、プロアントシアニジン類および抗酸化活性の比較)	食品科学
2019 (令和元)年度	Plasma phenotypes of protein S Lys 196Glu and protein C Lys 193del variants prevalent among young Japanese women (日本人若年成人女性に高頻度に存在するプロテインS Lys 196Glu変異とプロテインC Lys 193del変異の血液検査所見の検討)	健康・病態栄養科学
2021 (令和3)年度	Insulin Resistance and the Adiponectin/Leptin Ratio as a Surrogate Measure of Insulin Resistance in Japanese Collegiate Baseball Players 大学野球選手におけるインスリン抵抗性及びその代替指標としてのアディポネクチン/レプチン比	機能栄養科学

◆目指す将来

就職実績一覧(順不同・法人等表示は省略)

教員

大学

中村学園大学、九州女子大学、長崎国際大学、西九州大学

短大

精華女子短期大学、福岡医療短期大学



◆◆◆ 修了生からのMessage

研究者の基礎を培った大学院での学び

本学大学院の博士前期課程の在籍中に研究への興味がさらに高まり、博士後期課程に進学し、カンキツ香気成分に着目した特性評価およびシークワシャー果汁の真正評価に関する研究を行いました。実験、考察、論文作成から受理に至るまで順風満帆ではありませんでしたが、先生方から丁寧なご指導をいただき、仲間と切磋琢磨し、乗り越えられたことは一生の財産です。大学院終了後は、本学栄養科学部の助手、助教を経て、現在は講師として学生の教育と研究に携わっていますが、大学院で培った知識と経験が基盤になっていると実感しています。



2013(平成25)年度 栄養科学研究科 博士後期課程 修了
中村学園大学 栄養科学部 フード・マネジメント学科 講師

山本 健太さん

◆学びの内容

各科学系の研究内容

機能栄養科学系

人間は、栄養を摂取し、人体の最小基本単位である細胞において、化学反応、すなわち代謝を行い、諸々の生命現象を営む。本系は、栄養と人体の関わりを細胞・組織・器官レベルで解析する栄養生理・形態学分野と細胞・遺伝子・分子レベルで解析する分子栄養学分野に連動し、栄養と生命現象の関わり、とくに、栄養摂取の条件等による細胞の機能的変化等について、形態学、細胞生物学、生理学、生化学及び分子生物学等の指標を駆使した栄養に関する生命科学を展開する。本系は、博士前期課程の機能栄養科学部門に連動しているが、3系共通の「栄養科学概論」と系特有の「機能栄養科学概論」の講義の履修を必修するとともに、機能栄養科学系特有の特別研究を課す。

健康・病態栄養科学系

本系は、博士前期課程の健康・病態栄養科学部門に連動したものである。わが国では、少子高齢化が進展し世界のどの国も経験したことのない超高齢社会を迎えている。そこで、生活習慣病の予防と治療だけでなく健康寿命の延伸に向けて、健康増進科学、臨床医学と連携した栄養科学研究を推進する。3系共通の「栄養科学概論」と系特有の「病態栄養科学概論」の講義の履修を必修するとともに、健康・病態栄養科学系特有の特別研究を課す。

食品科学系

食品科学系では、博士前期課程の食品機能学分野および環境栄養学分野の研究テーマをさらに深く追及する。研究内容は2つのキーワード、「食品」と「生理機能性」で表すことができる。特に、植物性食品(有色豆類、カンキツ類など)を対象として、それらに含まれる代表的な機能性成分(フラボノイド類など)について、分析機器(高速液体クロマトグラフ、ガスクロマトグラフなど)を駆使して定量するとともに、植物由来成分の生理活性(抗酸化活性、抗炎症作用、抗がん作用、酵素阻害作用など)を調べる。すなわち、有色豆類を摂食する場合、煮る・炒るなどの加熱・加工が必要であるが、調理後の色素成分(アントシアニン、プロアントシアニジン)について機能性評価を行う。また、フラボノイド類は、摂食後、肝臓のチトクロムP450によって、水酸化されたり、脱メチル化されたりすることが知られている。そこで、これらの代謝物につき、前述の生理活性について評価を行い、機能性を有する代謝物の探索を行う。

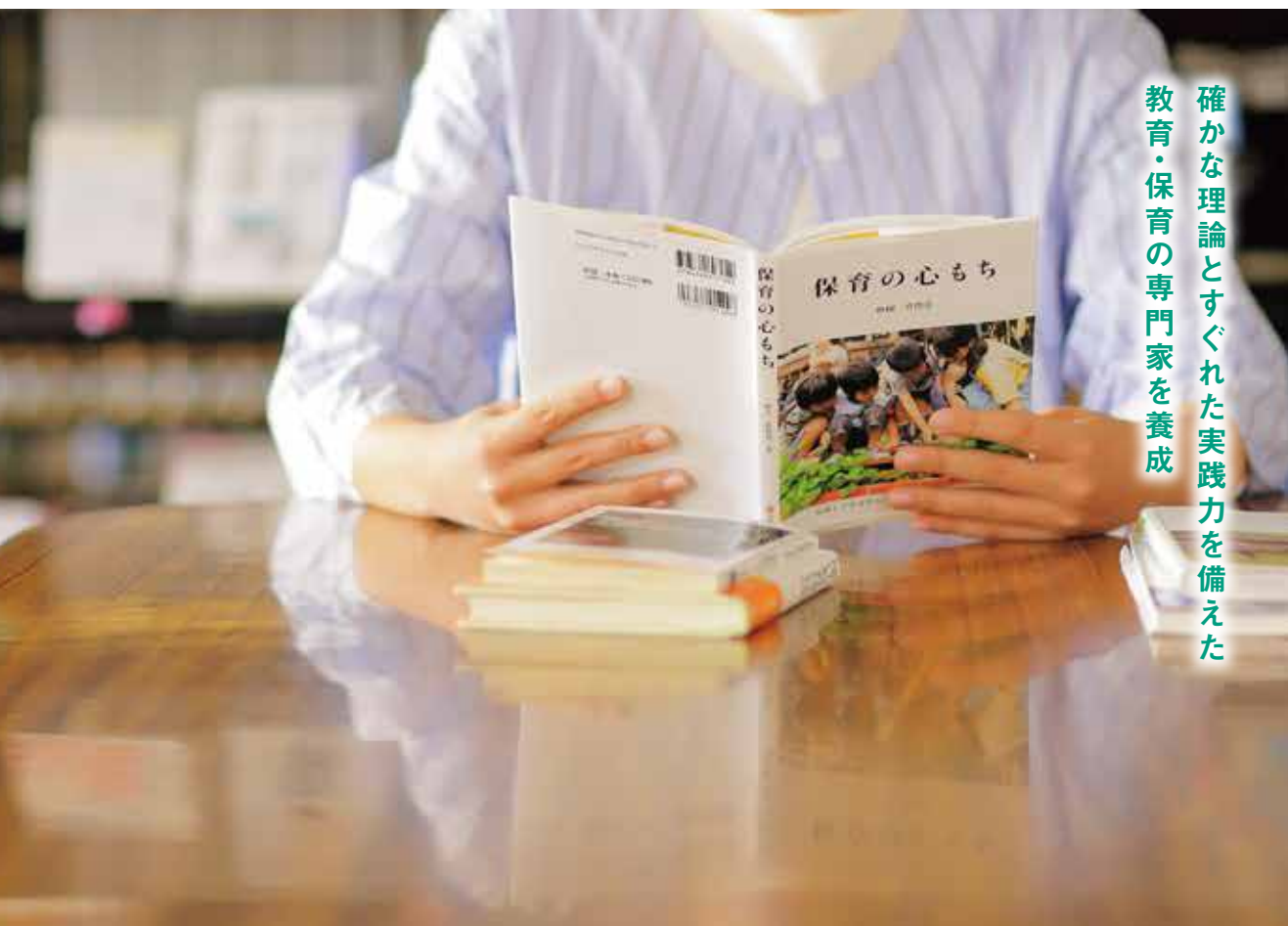
◆教員紹介

博士論文指導担当教員一覧(2025年度)

系	担当教員	テーマ
機能栄養科学	河手 久弥	本学では栄養系の学生約1,000名を対象として、健康栄養学実態調査(ヘルスチェック)を実施している。このヘルスチェックでは、身体測定、体組成測定、生活習慣調査、栄養調査、血液検査、尿検査、握力測定などを実施しており、これらのデータを元に、若年成人の健康度について詳細に解析するとともに、遺伝的要因や食事・運動介入の効果についても検討する。
	信久 幾夫	・胎生中期の大動脈に生じる血液細胞塊に生じる造血幹細胞の発生・維持に関わる分子に関する研究 ・栄養飢餓状態で発動されるオートファジーにおいて生じるオートファゴソームに局在する分子のオートファゴソーム形成機構への関与についての研究
	日野 真一郎	代謝異常により低体重あるいは肥満を呈するモデルマウスを用いて、各種ポリフェノールが持つ生体内での効果を、細胞組織化学的、分子生物学的手法を駆使して解明する。
	大和 孝子	ストレスは生活習慣病をはじめとした様々な疾病リスクの要因とされている。近年、長期にわたる自覚的ストレスは全がん罹患のリスクを上昇させるとの報告があり、ストレス軽減対策が生活習慣病の発症予防に重要であることが窺える。そこでストレスと栄養に関する食事摂取状況との相互作用、身体組成及び身体活動との因果関係など多面的に検討する。さらには得られた調査及び実験データを栄養改善などの栄養管理及び生活習慣病予防対策等に活用すべく研究を進める。
健康・病態栄養科学	加藤 正樹	蛋白質や脂質は生体にとって重要な栄養素であるが、その構成単位であるアミノ酸や脂肪酸の一部は、単に身体構造の維持やエネルギー源となるだけでなく、生命活動に関わるさまざまな生理機能を制御する活性を有している。非アルコール性脂肪性肝疾患(NAFD)や脂肪肝炎(NASH)の進展抑制のために、肝臓内の脂質代謝のみならず炎症や線維化、細胞死や再生などの視点からこれらの疾患の病態解明が進められている。本科目では、生体内で独特の生理活性を有することが知られているポリフェノール類やアミノ酸、脂肪酸を用いて、肝細胞の代謝や生理機能に与える影響を検討する。
	久保 千春	栄養が、免疫・アレルギーや老化に及ぼす影響について研究している。
	熊原 秀晃	身体活動は様々な内的・外的要因を介して食行動と密接に関連すると考えられる。ヒトを対象とし、身体活動・身体行動と摂食行動クロストークの調節因子を運動条件および数種の生理的・心理的パラメータに着目し探究する。本課題は、疾病の予防・治療あるいはスポーツ競技パフォーマンス向上に資する身体活動・栄養支援法を確立するための基盤的研究である。
	野崎 剛弘	睡眠障害は健康および社会職業生活に大きく影響する。最近、生活習慣病と睡眠の関わりが指摘されている。とくに肥満では睡眠障害を来しやすい。逆に睡眠障害は肥満を助長し、糖代謝やQOLを悪化させる。一方、肥満者では甘味嗜好が強く、甘味品の摂取量が増えている。このように、肥満と睡眠障害や味覚は相互に関連し合っており、これらの関連性を理解することは、肥満の予防と治療戦略を開発する上で重要である。そのような前提に立って、肥満者に対して、減量治療前後で睡眠測定用デバイスを用いて客観的睡眠指標を測定し、甘味覚を含む味覚との関連を調べる。交絡因子として心理的変数の関与を検討する。
	安武 健一郎	我が国において、高血圧は4300万人と最も患者数の多い生活習慣病であり、その栄養学的要因は、ナトリウムの過剰、カリウムの不足、アルコールの過剰および肥満である。そこで、高血圧の予防・治療に資する、栄養アセスメント、栄養教育を基盤とした研究テーマを計画する。
食品科学	沖 智之	植物性食品に含まれるファイトケミカルは、健康維持・増進に資する機能性を有し、近年では機能性表示食品の機能性関与成分としても注目されている。これら成分の定量には高精度な分析法が求められる一方で、現場での応用を見据えた簡便かつ実用的な分析手法の開発も重要である。本課程では、機能性表示に資する分析法の高度化、ファイトケミカルを多く含む食品の探索、さらに加工や保存工程における含有量の保持・増強技術の確立に取り組む。
	都甲 潔	フードテックはフード(食)とテクノロジー(技術)を合わせて創った造語であるが、食にまつわる技術にとどまらず、近年のSDGsをはじめとする社会や経済の課題とも連携した総合的な科学技術と位置づけられる。この超高齢社会、そして多様化の増大した社会では、これまでの一般大衆を対象としたマーケティングから個人の嗜好や健康を反映した食のパーソナライズ化が要求される。つまり、健康増進と食事満足度を両立させたテララーメイド食の研究開発が必須となる。そこで、五感の科学技術の最後の関門である味覚と嗅覚の数値化・可視化の教育と研究を行う。
	川野 光興	抗菌薬の乱用により従来の抗菌薬が効かない薬剤耐性細菌が世界中で増加している。薬剤耐性菌問題は全世界的な喫緊の課題となっており、有効な対策を講じなければ薬剤耐性菌による感染症により、2050年には年間1000万人が死亡すると予測されている。当研究室では、生鮮食品由来の薬剤耐性菌による感染症および体内への保菌を防ぐことを目指し、薬剤耐性菌に特異的に感染するバクテリオファージの単離、解析、有効活用を行う。さらに、ファージによる殺菌・除菌法の社会実装に向けた研究基盤を構築していく。

教育学研究科

確かな理論とすぐれた実践力を備えた
教育・保育の専門家を養成



◆学びのPOINT

修士課程 ▶ P.13

教育目標

教育学研究科は、人間形成の土台となる乳幼児・児童期の発達に関わる研究を行い、保育学・初等教育学に関して高度な専門性を有する研究者・教育実践者の育成を目標とします。

特色

本研究科は、子どもの発達、教育、保育に関わる確かな理論的基盤とともに、すぐれた実践力を備えた教育と保育の専門家を養成することを目的としています。そのため、本研究科では「教育学系」「保育・教科教育系」「教育臨床系」の3つの系を置き、自己の専門分野における深い探究とともに関連諸分野における幅広い学修を通じて、高度な知識・スキルの修得を図っています。さらに、本学付属の幼稚園・保育園や発達支援センターとの緊密な連携も大きな特徴です。それらを通じて、教育・保育や障害児教育、子育て支援の現場に即した実践力を身につけることができます。また、社会人の進学にも広く門戸を開いており、職業人として、また家庭人として学び続けるためのワーク・ライフ・スタディ・バランスを重視しています。

研究科長挨拶



教育学研究科 研究科長 [黒木 俊秀]

わが国では、少子化が深刻化する一方、子どもたちの生活環境は大きく変貌しつつあり、今後、子どもたちの心身の成長にどのような影響が現れるのか、予断を許しません。本研究科は、教育学系、保育・教科教育系、教育臨床系の3つの系からなり、教育学、教科教育学、保育学、発達心理学、教育心理学、臨床心理学、児童福祉学等、子供の教育・保育・発達に関わる学問分野における確かな基盤に立脚しつつ、小学校、幼稚園、保育所、福祉施設等の教育・保育の現場においてリーダーとして問題解決に取り組む専門家の養成を目指しています。

◆学びのコース

〈修士課程〉 〈修士課程(社会人1年制)〉

◇修士課程

修業年数:2年

2年間で修士号を取得する標準的なコースです。

長期履修制度(3年間)を利用し、仕事や育児と学業を両立させながら学ぶこともできます。

※長期履修制度は事前の申請が必要となります。

入試区分:推薦入学選考

試験入学選考

社会人特別入学選考

◇修士課程(社会人1年制)

修業年数:1年

「修士課程(社会人1年制)」とは、社会人を対象とした1年間で修士号を取得するコースで、所定の要件を満たしキャリアアップを目指す社会人を受け入れます。

入試区分:社会人特別入学選考

◆1年間集中したカリキュラム

1年間フルに授業・研究に専念し、2年制の「修士課程」と同じ内容を1年間で修了して、修士論文を完成させます。そのため、年間を通して集中した授業履修スケジュールおよび修士論文作成スケジュールが組まれています。

◆学費は1年分!

「修士課程(社会人1年制)」の1年間の学費は、2年制の「修士課程」の1年次生と同額です。

※出願を検討されている方は事前に入試要項で出願条件などをご確認ください。



◆学びの部門

カリキュラム(令和7年度現在)

系	群	授業科目名	単位数	
			必修	選択
教育学系		教育学特論Ⅰ(教育原理)		2
		教育学特論Ⅱ(教育制度)		2
		教育学特論Ⅲ(教育史)		2
		教育学特論Ⅳ(比較教育学)		2
		教育学特論Ⅴ(保育原理)		2
		教育学特論Ⅵ(教育福祉学)		2
		教育学特論Ⅶ(教育工学)		2
保育・教科教育系	保育専門科目群	保育発達特論Ⅰ(言葉)		2
		保育発達特論Ⅱ(運動)		2
		保育発達特論Ⅲ(造形)		2
		保育発達特論Ⅳ(音楽)		2
		保育経営特論		2
		保育課程特論		2
	小学校専門科目群	教科教育特論Ⅰ(算数)		2
		教科教育特論Ⅱ(理科)		2
		教科教育特論Ⅲ(国語)		2
		教科教育特論Ⅳ(社会)		2
		教科教育特論Ⅴ(英語)		2
		教科教育特論Ⅵ(体育)		2
		教科教育特論Ⅶ(音楽)		2
		教科教育特論Ⅷ(図工)		2
		自然科学特論		2
		体育学特論		2
	教育臨床系	発達神経科学特論		2
		教育心理学特論		2
		発達心理学特論		2
		教育臨床心理学特論		2
		家族発達支援論		2
		家族社会学特論		2
		児童精神医学		2
3系共通		発達臨床実習研究		2
		発達臨床実習		2
		障害児臨床特論		2
		特別研究A		2
		特別研究B		2
		特別研究C		2
		特別研究D		2
		研究方法論Ⅰ(人文科学研究法)		2
		研究方法論Ⅱ(自然科学研究法)		2
		研究方法論Ⅲ(研究デザイン)		2
		研究方法論Ⅳ(統計)		2

※令和7年5月現在のカリキュラムです。変更となる可能性があります。

◆ 学びの方針

3つのポリシー(令和7年度現在)

◇ アドミッション・ポリシー

本研究科は、次のような資質・能力・意欲を有している人を受け入れます。

1. 本研究科での学修にとって必要な学力的基盤を有している人
 2. 本研究科で学修したいという強い目的意識と熱意を有している人
 3. 本研究科修了後に、修得した専門的知識、実践力及び研究遂行能力を高度専門職業人として活用する意欲を持っている人
- これらの資質・能力・意欲を書類審査、筆記試験、面接によって総合的に評価します。

◇ カリキュラム・ポリシー

本研究科は、ディプロマポリシーに掲げる資質・能力の修得のため、以下に示す教育課程を編成するとともに学修方針を定めています。

1. 学修のための枠組みとして「教育学系」「保育・教科教育系」「教育臨床系」の3つの系を置いている。
2. 各系における教育課程編成は、それぞれの分野における高度な専門的知識の修得を図ることを基本としている。大学院生は3系から1つを選択し、その系の専門分野に即した学修を行うが、他系科目の履修による幅広い学修も確保されている。
3. 大学院の学修における中心は修士論文作成である。修士論文の作成を通じて高度な研究遂行能力の涵養を図っている。修士論文作成のための必修科目として「研究方法論」と「特別研究」を置いている。「特別研究」は指導教員が担当し、そこにおいて修士論文作成のための具体的な指導がなされる。修士論文の評価は「教育学研究科学位論文審査基準」にしたがって行われる。
4. 教育学研究科の授業のほとんどは少人数教育で行われ、教員と大学院生によるディスカッションを通じての授業への能動的参加を促進している。
5. 本学付属の幼稚園、保育園、発達支援センターと連携した学修を通じて、保育や発達支援の現場実践に即した課題解決能力の涵養を図っている。

◇ ディプロマ・ポリシー

本研究科は、次のような資質・能力を有すると認められた者に修士(教育学)の学位を授与します。

1. 教育または保育の理論、制度、歴史、社会情勢、指導または支援等に関する幅広い専門的知識を身に付けている。
2. 教育または保育に関する諸問題に対して、実証可能な問いを的確に設定することができる能力、解を導くための適切な方法を考えデザインすることができる能力、その方法を遂行でき最適な解を導くことができる課題解決能力を身に付けている。
3. 上述の知識や課題解決能力を教育または保育、関連領域に関する研究課題に応用し活用できる研究遂行能力を身に付けている。
4. 主体性、積極性を有し、他者と協働しながら問題解決や研究課題に取り組み、その成果をまとめ、他者に分かりやすく発信する能力を身に付けている。
5. 教育または保育、関連領域に携わる高度専門職業人として相応しい倫理観、価値観を身に付けている。

◆◆◆ 在学生からのMessage

もっと子どもたちの力になりたいくて

大学の教育実習では、児童との関わりを通して、小学校教諭への思いが確かなものとなりました。しかし一方で、その関わりの中で、困り感をもつ児童や支援を必要とする児童への対応に苦慮する場面も多く、個々に応じたより専門的で実践力のあるスキルを身に付ける必要性を強く感じ、大学院への進学を決めました。

院では、研究テーマや自身の関心・必要性に沿った授業が多く展開されており、今までの知識が刷新される毎日です。現在は共生教育をテーマに研究を進めていますが、今後は、自身の研究や院で学んだことを広く発信するとともに、児童のより良い育ちに寄与できるような小学校教諭になりたいと思っています。



教育学研究科

津留 愛弥佳さん

◆ 学びの成果

修士論文テーマ一覧(2020年度～2024年度)

	修士論文テーマ	部門(分野)
2020 (令和2)年度	中堅保育者の在職継続の意思決定プロセスからとらえる保護因子・危険因子の解明	教育臨床系
	砂場遊びにおける子どもの経験の分析と小学校への接続に関する研究 ― I 幼稚園での観察と学習指導要領をふまえて―	教育学系
	児童虐待死亡事例検証報告書からとらえる保健師等の対応の実態と支援者としての今後の在り方	教育臨床系
2021 (令和3)年度	幼児の連合遊びにおける協同性のあらわれ	教育臨床系
	自我同一性理論からとらえる保育志望学生の他職種決定プロセス	教育臨床系
2022 (令和4)年度	保育職の早期離職問題と養成校におけるキャリア教育との関連性に関する一考察	保育・教科教育系
	特別な配慮を要する児童への食指導に関する外的妥当性の研究	教育臨床系
	保育者の在職意向に寄与する園内研修の検討 ― 職場の同僚性、保育者の職業適性に着目して―	保育・教科教育系
	子どもと保育者が共に主体となって織りなす遊びに関する研究 ― 保育実践の可視化をめざして―	保育・教科教育系
	保育者の仕事の価値づけスコープの実態と測定の試み	教育臨床系
2023 (令和5)年度	豊かな言葉をはぐくむ国語授業の提言	保育・教科教育系
	保育所における子育て支援の現状と課題 ― 地域子育て相談機関としての展開を視野に入れて―	教育臨床系
	保育環境における「音」の研究	保育・教科教育系
	幼児期ラットに対する聴覚刺激が行動特性に及ぼす影響	教育臨床系
2024 (令和6)年度	青年期の発達課題に応じた自己理解の探求	教育臨床系
	幼児のための「おはなし」の変遷と「読み聞かせ」の発生	保育・教科教育系
	小学校図画工作における情報端末を用いた表現活動に関する研究	教育学系
	クラウドを活用した協働学習に関する授業設計の研究	教育学系
	保護観察制度の成立過程に関する研究 ― 明治期から昭和戦前期までを対象に―	教育学系

◆ 目指す将来

就職実績一覧(順不同・法人等表示は省略)

教員

大学	中村学園大学、福岡女学院大学、九州産業大学、宮崎国際大学
短大	中村学園大学短期大学部、佐賀女子短期大学
小学校	福岡県教育委員会、福岡市教育委員会、筑紫野市立筑紫小学校
特別支援学校	福岡県立聴覚特別支援学校、荒尾特別支援学校
幼稚園	成田山幼稚園、桧原こひつじ幼稚園、若草幼稚園、あさひ幼稚園、壱岐幼稚園
専門学校	福岡こども専門学校、FCフチガミ医療福祉専門学校

保育士

保育園	せいがの森保育園
公務員	福岡市

その他

公務員	福岡県、志布志市、久留米市
施設	六本松デイサービスセンター、りらく城西

◆◆◆ 修了生からのMessage

高い専門性を身につけ視野が広がる2年間

私は、保育実践だけでなく理論をしっかりと学び、高い専門性を持って子どもたちの前にたちたいと思い大学院進学を決めました。大学院では、教育・保育学だけでなく、心理学や、脳科学、社会学など、関連する分野を幅広く学ぶことで、新しい視点を持つことができ実践的で専門的な学びを得ることができました。また、専門分野が様々である先生方や、院生とディスカッションしながら授業を受けることで、充実した時間を過ごすことができ、視野を多面的に広げることにつながりました。学ぶことの楽しさと面白さを感じる2年間でした。



2022(令和4)年度 教育学研究科 修了
福岡市役所(保育士)

杉村 美紀さん

◆学びの内容

確かな理論とすぐれた実践力を目指す3つの系

教育学系

教育学の確かな基盤と高度の知識を備えた専門的人材の育成

グローバル化が進み、知識基盤社会へと大きく変動している21世紀においては、幼児教育に携わる人々や学校の教師にも、今まで以上のより高度な知識・技能が求められています。このような時代の要請に応えて、この教育学系では比較教育学、教育哲学、幼児教育、社会教育等の教育学における諸分野を中心とする学修を通じて、教育学の確かな基盤を有し、変動する21世紀の社会、教育、学校の実相を深く理解するとともに、世界に開かれた広い視野を持つ専門的人材の育成を目指します。

教育学系の授業の特色

教育学系の授業は、教育学における専門分野（比較教育学、教育方法学、幼児教育、社会教育）を中心とする講義、文献講読等による演習、調査研究等を通じて、現代の日本と世界の初等教育や幼児教育において生起している諸問題の究明と、教育実践の改善に資するための高度な専門知識の修得を図ります。

保育・教科教育系

最新の保育・教科教育の理論の修得と指導力の向上

内外の最新の保育・教育理論と指導・支援のあり方についての研究を精査し、高度の洞察力と実践的指導力を備えた専門家の養成を目指しています。

正しい子ども観に基づく教育技術論の研究、多様で個性的な教育課程の探求、コンピューターを用いた新しい学習システムの研究開発、国語科の教材開発、乳幼児と保育者の言語表現の研究、幼児期の音楽表現プログラム、絵画等の造形表現の研究、人の発育と身体運動発達の特性研究、幼児・児童の運動発達を促進する遊びの空間の開発、幼児・児童の運動神経細胞や骨格筋形成の発達研究、体育科の授業の開発研究、人の発生発達の特性と系統性の研究などがあります。

保育・教科教育系の授業の特色

付属幼稚園、付属保育園、研究協力校と連携し、教育・保育技術を修得する科目を設けています。また、算数、理科、言葉、体育、造形、音楽等の授業技術に関する授業を通して、幼児保育や児童教育に求められている高度な教育方法を修得します。

教育臨床系

幼児・児童および家庭の支援方法を実践的に修得

人間発達に関する学術的研究だけでなく、家庭、地域、学校、施設などで実際に起こる幼児・児童の発達上の諸問題を実践的に解決できる人材を養成することを目的としています。発達上の問題の解決方法を実践的に研究します。第一に臨床発達心理学に基づいて人間発達の根底にある愛着の発達や動機づけの研究を行い、幼児・児童の発達の効果的な支援方法を検討します。また、最近多発する虐待と発達障害問題を抱える家族の支援方法の開発を行います。第二に、心理学や臨床精神医学に基づいて、発達障害の診断と治療法の研究を行います。たとえば、動作法、ソーシャルスキルトレーニングなどを適用することにより、障がい児の発達を促す支援技法の研究を行います。

教育臨床系の授業の特色

教育相談、発達相談、子育て相談などにおいて、幼児・児童の発達上の問題を解決するための実習科目を設けています。家庭の子育て支援、虐待、問題行動障がい児などを科学的に分析し、健常児や障がい児の保育・教育技術及び支援技法としてカウンセリングやケースワークの技術などを修得します。

修士論文指導担当教員一覧(2025年度)

系	担当教員	テーマ
教育学系	圓入 智仁	2つの研究テーマを設定する。第1に、幼児期の子どもの理解に関する研究である。教育学、心理学、保育学、社会学、福祉学など様々な学問の知見を踏まえ、学際的に幼児を理解するための研究に取り組むことで、幼児教育や保育の実践の場における課題を的確に把握する力を養う。第2に、国内外における子どもの社会教育に関する歴史あるいは実証的な研究である。習い事やスポーツ、野外体験など子どもの社会教育の内容、施策、制度、指導者や参加する子どもの実態、さらには、政治的あるいは社会的な背景などを具体的に解明する。この中には、子どもの教育と福祉を架橋する教育福祉論も含めたい。
	山本 朋弘	本特別研究は、教育学及び情報教育に関する研究領域を扱う。授業研究や教材開発を取り上げ、個別最適な学びや協働的な学びを支援する教育DXやICT教育の在り方を探る研究を行う。また、児童生徒の情報活用能力の育成をめざすSTEAM教育やプログラミング教育を追求する。さらに、教師の働き方改革と関連づけた、ICT活用指導力を育成する教師教育や教員研修に関する研究を行う。学校間の交流学習や学校と家庭をつなぐオンライン学習・eラーニング等の遠隔教育についても取り組む。
保育・教科教育系	石田 靖弘	テーマは、理科授業の改善である。 学校現場での修士をもつ教員への期待、特に教科教育に対する期待は、授業実践を行い、その実践の中に教科の本質や教材の本質といった点から課題を見だし、追究し、絶えず授業改善を行っていく文化を教員間に広めていくことである。そのため、本特別研究においては、学生の皆さんが、理科教育の課題を追究するにあたっての理論的基盤を整理するとともに、授業観察や研究会への積極的参加を通して、授業を深く考察することができるようにする。
	那須 信樹	本特別研究では、保育をめぐる社会的課題や実践現場における諸課題、及びその背景等について明らかにしつつ、もって保育職の養成・育成並びに保育の質の向上に寄与することを目的とした実証的・開発的な研究に取り組む。主なアプローチの観点としては、以下の通りである。 ①保育職のキャリア形成と体系的な研修システムの開発 ②保育実践の場におけるマネジメント
	野中 千都	本特別研究では、乳幼児を対象とし、保育・幼児教育の質向上を目指し研究を行うものとする。 文化によって人は心を成長させ、人によって文化は生み出されていく。文化とは文化財だけではなく、人々を取り巻く全て、つまり環境である。子どもは環境(文化)の中で心を育てていく。子どもにとっては、まわりの大人・保育者の考え方や行動の仕方までもが、子どもの心身の発達に大きな影響を与える環境となる。時代により異なり、あるいは共通する部分を持つ環境を、子どもにとってよりよいものとして構成し、大人の認識と深慮、研鑽が必要不可欠なものになる。 研究テーマは学生自身によるものとなるが、具体的なものとしては①絵本などの児童文化にかかわる研究、②乳幼児期の子どもの言葉の育ちと保育者のかかわりなどの研究、③保育者の専門性に関する研究、が主な観点となる。
	平田 繁	本特別研究では、小学校道徳科の実践に焦点をあてる。 今日、いじめや暴力、不登校、教職員の若年化・多忙化等、学校現場に関わる課題は山積している。子供のスマホ所有率も年々上がり、更なる教育問題が発生する可能性がある。そのような中、道徳の時間が「道徳科」として教科化され、副読本から教科書を教材とした学習指導が実施されるようになった。道徳教育は、全教育活動を通して行われているが、要は「道徳科」である。そこで、今日的課題から道徳科の指導内容を決め、発達段階の系統、他教科との関連、教材分析をしながら実践の方途を構想していきたい。
教育臨床系	笠原 正洋	育児不安や虐待(家族内暴力)等に関して、保育者(保育所保育士・幼稚園教諭・保育教諭等)は、子供だけでなく保護者に対する支援(家庭支援、保育相談支援)を行っている。しかし、このような領域には、虐待被害を受けた子供へのアプローチ、保護者に対する支援、園組織内・専門職間の連携、保育者の専門性発達の問題等、様々な問題がある。本特別研究では、発達臨床心理学の立場から、このような領域に関わる問題の解決を目指した実証的研究を行う。
	黒木 俊秀	本特別研究では、力動的心理学と発達精神病理学の視点より、危機的な状況にある子どもの理解とその支援の在り方について周囲の大人たちとの関係性を軸に検討する。特に以下のような課題を考えてみたい。①幼稚園・保育所における子どもの認知的、情緒的、及び行動的問題の発達軌道の多様性、②幼児教育と保健医療領域との連携の現状と課題、③幼児教育現場におけるトラウマ・インフォームド・ケアの理論と実践、④幼稚園教諭・保育士のバーンアウト、及び代理受傷の実態と対策
	中野 裕史	運動刺激は神経細胞の成長・修復および神経新生を促進し、それには成長因子と呼ばれるIGF-IやBDNFなどの物質が関与することが明らかとなりつつある。本特別研究では運動による認知機能とパフォーマンスの変化とそのメカニズムについてヒトと動物における研究を行う。
	野上 俊一	本特別研究では、各自が研究テーマとして選んだ教育や保育における具体的な現象を「人間の賢さ」の観点から学術的問題と実践的問題として定めて、心理学的実証研究を行う。「人間の賢さ」には様々な側面があるため、本特別研究では人間を学び続けて賢くなる存在とみなし、学びの追究に関連する「メタ認知・協同学習・知的好奇心・経験学習」のいずれか1つを研究のキーワードに含める。

流通科学研究科

専門知識と的確な判断力を持つ
流通ビジネスのリーダーとなる人材を育成

◆学びのPOINT

修士課程 ▶ P.19

教育目標

流通科学研究科は、研究指導を中心としながらも、大学院修士課程に対する社会的要請並びに専門家育成に対する流通分野の産業界からの要望に応じて、次代を担う流通科学のプロフェッショナルを育成します。

特色

九州で唯一の流通科学系大学院として、流通科学の研究者・アナリスト及び流通ビジネスの第一線で活躍できる専門人材を育成します。本研究科では、流通科学の研究者・アナリストなどを目指す研究指導コースと、流通分野の高度専門職者の養成を目指す科目履修コースを設置。科目履修についても2つの系統を設け、「経営学系」では、戦略的経営、マネジメント及び会計の領域を教育・研究する系統であり、マネジメントの革新に貢献できるプロフェッショナルを育成します。また「商学系」では、マーケティング、ロジスティクス等の領域を教育・研究する系統であり、流通プロセスの革新に貢献できるプロフェッショナルを育成します。

研究科長挨拶



流通科学研究科 研究科長 [浅岡 由美]

企業活動がますます多様化、複雑化する現代では、特に、グローバル、あるいは地域に根ざして活躍できる人材や研究者が求められています。

流通科学研究科(修士課程)は、2004年4月の開設以来、流通、企業経営、マーケティング、ロジスティクス関連の知識及び企業経営を中核にした教育を理論と実践を通じて行い、毎年10名程度の修士(流通科学)を輩出してまいりました。経営学系と商学系に20名ほどの教員を配置し、専門的に研究を進められるよう、指導にあたります。

学修や研究が大学院生のキャリア形成に役立つとともに、実際の社会や組織に貢献できることを願い、教員とスタッフ一同、全力で取り組んでまいりたいと思っています。

◆学びの方針

3つのポリシー(令和7年度現在)

◇アドミッション・ポリシー

流通科学研究科(以下、「本研究科」という)は、次のような資質・能力・意欲を有している人を受け入れます。

1. 経営学分野又は商学分野に関連する基礎的知識を備えている人
 2. 経営学分野又は商学分野に関連する専門的知識と適切な問題解決能力を修得しようとする意欲と探求心を持っている人
 3. 発見した課題を思考や調査・分析によって解決し、その結果を論理的に社会に発信できる人
- これらの資質・能力を、筆記試験、面接、提出書類により総合的に評価します。

◇カリキュラム・ポリシー

本研究科は、ディプロマポリシーに掲げる資質・能力を修得するため、以下の学修方針を定め、教育課程を編成しています。

1. 本学流通科学部の教育研究分野と連動させ「経営学分野」と「商学分野」を配置し、系統的に履修することで各分野の専門的知識を修得する。
2. 基礎科目を「各系共通(基礎科目)」の区分に配置する。
3. 専門科目を「経営学系科目」と「商学系科目」の2つの系統に配置する。
4. 修士論文作成に資する知識及び技能を修得するための「専門演習科目」を配置する。
5. 学修成果については、各授業科目のシラバスに明記した成績評価基準に基づき厳格な成績評価を行う。また、修士論文については、論文審査基準に基づき、主査1名、副査2名により総合的な評価を行う。

◇ディプロマ・ポリシー

本研究科は、次の能力を備え、所定の単位を修めた者に修士(流通科学)の学位を授与します。

1. 経営学分野又は商学分野における専門的知識を持ち、高度な研究遂行能力を身に付けている。
2. 社会の状況の変化に対応し、課題解決において指導的活躍ができる。

◆◆◆ 在学生からのMessage

制度をデザインする力を身につけたい——
地域と世界をつなぐ存在を目指して

学部時代、現代社会におけるモビリティの在り方に関心を抱き、特に日本で議論が進んでいるライドシェアに注目したことが、大学院進学のかっけとなりました。

現在は、ライドシェア導入に伴う制度的・社会的課題、具体的にはタクシー業界との関係や規制、地方における交通空白地帯の問題、さらに消費者の受容性や安全性への懸念などを研究しています。諸外国の事例と比較しながら、日本に適した制度設計の可能性を探っています。

大学院では、理論と実践の両面から流通、マーケティング、国際ビジネスについて深く学び、国際的な視野と行動力を備えたビジネスパーソンとして成長することを目指しています。将来的には、商学の知識を活かして日本と海外の市場をつなぐ架け橋となり、新たな価値の創出に貢献したいと考えています。

◆学びの部門

カリキュラム(令和7年度現在)

系	科目名	単位数	
		必修	選択
各系共通(基礎科目)	流通科学特論		2
	経営学特論		2
	マーケティング・マネジメント特論		2
	経済学特論		2
	アジア経済特論		2
	統計学特論		2
	研究調査法特論		2
	国際コミュニケーション特論		2
	情報処理特論		2
	経営管理特論		2
経営学系科目	経営組織特論		2
	経営戦略特論		2
	人的資源管理特論		2
	グローバル経営特論		2
	ベンチャー経営特論		2
	経営情報特論		2
	財務会計特論		2
	管理会計特論		2
	法人税法特論		2
	所得税法特論		2
商学系科目	財務諸表分析特論		2
	コーポレート・ファイナンス		2
	マーケティング戦略特論		2
	ブランド・マーケティング特論		2
	サービス・マーケティング特論		2
	ソーシャル・マーケティング特論		2
	グローバル・マーケティング特論		2
	デジタル・マーケティング特論		2
	消費者行動特論		2
	流通チャンネル特論		2
専門演習科目	食品流通特論		2
	流通政策特論		2
	ロジスティクス戦略特論		2
	国際物流管理特論		2
	アカデミックライティング	2	
	フィールドリサーチ		2
	流通科学演習A	2	
	流通科学演習B	2	
	流通科学演習C	2	
	流通科学演習D	2	

※アカデミックライティングは留学生必修科目
※令和7年度5月現在のカリキュラムです。
変更となる可能性があります。



流通科学研究科

馮桂榮さん

◆ 学びの内容

流通ビジネスのリーダーを育てる2つの系

経営学系

経営学系は、産業の多角化、統合化、グローバル化に対応して、戦略的経営と専門的マネジメント及び会計の領域を教育・研究する系統です。流通を単なる経営基幹業務の一つという視点ではなく、経営の重要な攻略部門として位置付けて経営戦略の理論と実践方法の教育また、流通経営を創業するベンチャー経営の方法も教育します。

商学系

商学系は、マーケティング、ロジスティクス等の領域を教育・研究する系統です。各産業におけるマーケティング、ロジスティクス業務を革新する理論や実践の手法を学べる体系的科目群を開講しています。いわゆる、“商流”と“物流”の管理に重点をおいた内容を学修できます。また、教育・研究の対象地域・実証研究のフィールドは、日本のみならず中国・韓国・東南アジアの諸国及び欧米を含みます。

◆ 学びの成果

修士論文テーマ一覧(2020年度～2024年度)

修士論文テーマ		部門(分野)
2020 (令和2)年度	中日の生鮮食品流通における電子商取引についての研究～市場関連の電子商取引の展開を中心に～	流通マーケティング系
	地理的表示(GI)農産物の日中国際電子商取引に関する研究～八女伝統本玉露と宮崎牛を事例として～	流通マーケティング系
	中国の生鮮農産物流通における参加型保証システム(PGS)の必要性と今後の課題～日中両国における実態からの考察～	流通マーケティング系
	日中の化粧品電子商取引の比較分析～類似性と相違性の考察～	流通マーケティング系
	ロジスティクスにおけるAI技術の応用に関する研究	流通マーケティング系
	EC市場におけるロジスティクス戦略の展開に関する研究	流通マーケティング系
	中国と日本の牛肉産業の比較研究	流通マーケティング系
	中国におけるロジスティクスセンターの革新的な取り組みに関する研究	流通マーケティング系
	日本における宿泊型グリーン・ツーリズムの可能性に関する考察	流通マーケティング系
2021 (令和3)年度	スマートアプリによるビジネスモデル・イノベーションーTikTokの事例を通してー	流通マネジメント系
	家電流通に関する研究ー日中におけるコロナ禍による影響を中心にー	流通マーケティング系
	福岡における中華料理店の差異化戦略ー川香閣を中心としてー	流通マーケティング系
	観光の進展プロセスに関する考察ー内モンゴル自治区の事例からー	流通マーケティング系
	居酒屋におけるカスタマー・ジャーニーに関する研究	流通マーケティング系
	「ニューリテール」モデルの可能性と課題ー日本における生鮮小売業態革新の対応を中心にー	流通マーケティング系
	中日における百貨店のビジネスモデル革新に関する研究ー中国の銀泰百貨を研究対象としてー	流通マーケティング系
2022 (令和4)年度	高齢者のICT利活用の現状と課題	流通マーケティング系
	企業における社内公用語化に関する研究	流通マネジメント系
	日本における生鮮ネットスーパーのユーザー体験の考察	流通マーケティング系
	飲食サービス業の販売チャネルと顧客満足度に関する考察	流通マーケティング系
2023 (令和5)年度	日本における6次産業化の取り組みと今後の展望～八女市及び朝倉市の直売所を事例として～	商学系
	日中リユースビジネスに関する研究Cフリマアプリを中心にー	商学系
	日中両国の高齢者の買い物支援に関する考察ー多面的な政策及びコロナ禍の実態を中心にー	商学系
	伝統的工芸品による地域活性化に関する考察	商学系
2024 (令和6)年度	日本における西洋料理専門店の成り立ちとオーナーシェフのキャリア展開に関する類型化	商学系
	キャッシュレス決済の進化と高齢化社会への対応ー主に日中両国の状況を踏まえて	商学系
	宿泊特化型ホテルにおける人的資源管理に関する考察	商学系
	アパレル業界におけるサステナブル化の現状及び課題と今後の展望について	商学系
	財産評価方法に関する一考察ー財産評価基本通達6項を中心にしてー	経営学系

◆目指す将来

就職実績一覧(順不同・法人等表示は省略)

進学・研究生

広島大学大学院博士後期課程

製造

エクセニムラ、福さ屋

運輸

ANA福岡空港、双日ロジスティクス

卸小売

ファーストリテイリング、ZEROPLUS、ヤマダデンキ、セブンイレブン・ジャパン、ファミリーマート、ローソン、トライアルカンパニー、マックスバリュ西日本、イオン九州、コーチ・ジャパン、セリングビジョン、マルキョウ、ラオックス、ブックオフコーポレーション、ココカラファインヘルスケア

不動産

レオパレス21、ジェイ・エス・ビー、ライフイノベーション

学術研究、
専門・技術
サービス業

如水監査法人、日本経営研修生サポート、税理士法人アップパートナーズ

サービス・飲食

FOOD & LIFE COMPANIES、グリーンハウス、マースブランニング、はま寿司

教育・学習支援

大原学園、原田教育研究所、中村調理製菓専門学校

その他

JR九州システムソリューションズ、おお蔵ホールディングス、楽天カード、JTB、佐賀県商工会連合会

海外

青島農業大学、愛信(蘇州)汽車技術中心有限公司

◆◇◆ 修了生からのMessage

将来に生きる流通科学の基礎理論と実践力

中国青島農業大学を卒業した後、日本の食料流通に興味を持って大学院流通科学研究科に入学しました。

当研究科のコース設定は非常に実用的で、流通科学の基礎理論だけでなく、実践能力の育成にも重点を置いています。専門的に研究を進めていく中で理論と実践を結びつけ、将来のキャリアのために堅固な基礎を築くことができました。

また、先生方は学識が深いだけでなく、教育経験も豊富で、いつも生きた事例と深い説明で知識をよりよく理解することができました。心から感謝いたします。

最後に、学校がますます良くなり、より多くの優秀な流通科学人材を育成することを祈ります。



2023(令和5)年度 流通科学研究科 修了

郭 倩男さん

◆Topics

経営学特論

経営学の領域で研究されてきた基本的な課題—企業論、経営戦略論、経営組織論、経営管理論、財務管理論、生産管理論、人的資源管理論、組織行動論、国際経営論など—について、そのエッセンスを学びます。経営学ではどのようなことが研究の対象とされてきたのか、その目的は何か、といったことを理解することをねらいとしています。実際の企業の経営行動などの事例を紹介しながら講義を進めます。

フィールドリサーチ

新聞・雑誌記事やインタビューデータなどの質的データの分析法(内容分析等)の基本を踏まえ、フィールドワーク、インタビュー調査、エスノグラフィー、テキスト分析など流通科学研究科の調査で多用される質的調査を中心に、それらの分析手法の知識と実践的能力を修得することをねらいとしています。社会調査協会の専門社会調査士資格を取得するために必要な「[J] 質的調査法に関する演習(実習)科目」に該当しています。

マーケティング・ マネジメント特論

マネジリアル・マーケティングのコンセプト、戦略的視点について、論理面と実際面に関して、講義やケーススタディを通じて学習します。特に、マーケティング戦略やマーケティング・コントロールに関する基礎的理解を深めていきますが、必要に応じて、統計処理、リサーチ方法、経営分析などに触れます。

流通科学研究科セミナー

当セミナーでは、流通分野の専門性を学ぶために、流通分野の第一線で活躍する講師を招聘し、時代を担う流通科学のプロフェッショナルの講義を受講する機会が設けられています。



年 度	講演テーマ	講 師
2018年度	B to B企業のマーケティング課題と展望 ～顧客関係を強化する～	慶應義塾大学大学院 経営管理研究科教授 余田 拓郎 氏
2019年度	「普及論～新製品、新サービスは どのように普及するのか」	立命館大学 OIC 総合研究機構 プロジェクト研究員 三藤 利雄 氏
2020年度	コロナ禍による流通の影響と対応 ※流通科学研究所国際セミナーと共催	日本:手嶋 雄二 氏(福岡大同青果株式会社 専務取締役) 徳留 基雅 氏(株式会社ハローディホールディングス 執行役員部長) 佐々木徳久氏(ロイヤルホスト株式会社 代表取締役社長) 堤 新吾 氏(エフコープ生活協同組合 理事長) 中国:王 志刚 氏(中国人民大学 教授) ※動画による発表 韓国:金 中起 氏(韓国 全北大学 教授) ※動画による発表 アメリカ:S.H.マキネス 氏(本学流通科学部講師)
2021年度	トライアルグループ リテール DX への取り組み	Retail AI 取締役 兼 Retail AIX 取締役 兼 Retail AI Engineering 代表取締役 古賀 輝幸 氏
2022年度	小売業の DX—データドリブン経営—	グッデイ株式会社 代表取締役社長 嘉穂無線ホールディングス株式会社 代表取締役社長 柳瀬 隆志 氏
2023年度	DX 時代のリスキリング	株式会社エクサウィザーズ はたらく AI&DX 研究所 所長 リクルートワークス研究所 客員研究員 石原 直子 氏
2024年度	三井住友銀行における デザイン活動の取組	株式会社三井住友銀行 リテール IT 戦略部 デザインマネージャー 松下 耕太郎 氏

修士論文指導担当教員一覧(2025年度)

系	担当教員	テーマ
経営学系	星野 裕志	世界には様々な社会的な課題があり、また急速な環境変化が進行する中で、今後企業や社会が持続的な成長をするために求められる戦略とソーシャル・イノベーションについて、研究を行います。特に、「ソーシャル・マーケティング特論」では、利益追求と共に社会的課題の解決に貢献するバランスのとれた事業のあり方について学習し、「グローバル経営特論」では、事業のグローバル展開に向けた戦略について分析します。理論的かつ実践的な研究指導を行います。
	前田 卓雄	本演習では、組織行動学 (Organizational Behavior) をベースに研究を進めていく。組織行動学は、応用行動科学に位置付けられる学問で、組織内の働く人々の態度や行動を研究領域としている。したがって、その研究対象は多岐にわたっている。演習では、実際に組織(企業)で生じている様々な課題について、「説明し」、「予測して」、「統制をする」といった観点から研究を進めていく。具体的には、予備研究を通じて課題の抽出や絞り込みを行い、リサーチクエスションや仮説を設定する。そして、それらを実証するための分析を通じて課題解決へ向けた実践的含意を得て、研究成果を論文化するまでを指導する。
	水島 多美也	管理会計、原価計算に関連したテーマについての研究を行っていく。管理会計は、財務諸表作成のための諸原則を研究する財務会計とは異なり、売上高の増加やコスト削減に必要な会計情報を経営管理者に提供することを主たる目的とする。したがって、研究テーマとしては、利益計画や予算管理、あるいは近年いわれている、環境管理会計 (SDGsの問題も含む)、生産管理会計、戦略管理会計といった問題についても、広く扱うことにする。演習においては、基本的な論文の書き方にはじまり、企業調査なども積極的に行うことによって、修士論文の完成にむけた指導をしていく。
	土井 貴之	本演習では、簿記や財務会計に関する研究を行います。主な研究テーマは会計史です。会計とは、企業などの活動を数値化して記録・集計・報告することです。現在は、近世・近代期日本の酒造業で用いられていた帳簿とその役割の発展過程を考察し、会計の機能と社会的背景との関係について研究しています。演習では、学生の興味がある分野の先行研究を整理した上で、研究テーマを決定します。そして、研究を進める手法(定量的・定性的)を学習し、学会などでの発表を通して修士論文を完成させます。
	橋本 敦夫	企業などの組織は、経営の過程で生じる諸問題や経営の持続性に必要な諸課題を抱える場合がある。経営者の意思決定を支援する目的でこれら諸課題に対する解決策や改善案を科学的・数理的方法で推計し提示できることを学ぶ。学生が興味を持つ課題について、生産効率性の評価・包絡分析法 (DEA)・経営シミュレーション等の手法で数値計算を行い実証的な分析を行う。そのため表計算ソフトとプログラミングソフトを活用して研究を進める。
商学系	浅岡 由美	経済のサービス化が進展する中で、サービスに関する理解は、サービス産業のみならず製造業においても不可欠となっている。サービスマーケティングについて理解を深め、サービス産業、ホスピタリティ産業における管理と戦略に関する研究を指導する。サービス産業における組織デザインと人的資源管理、サービス商品の分析とデザイン、サービス品質の分析、これら産業における消費者行動などが研究の対象となる。理論的であると同時に実践的にも貢献のできる研究を期待する。
	姉川 正紀	現在の社会では、コンピュータとインターネットを使った各種サービスが不可欠な物となっている。本演習では、高度な情報処理技術を習得すると共に、実社会における実践的な応用をおこなう。具体的には、プログラミング等をおこない、実際にある程度のシステムを完成させる。このシステムを用いて、各種シミュレーションや実践的な運用をおこなう。 したがって、これらの目的を達成する為に、コンピュータ分野に詳しい(プログラミングが出来る)事が必須である。また、統計学等の数理的知識がある事が望ましい。
	片山 富弘	マネジリアル・マーケティングにおける学生の関心テーマに沿った研究指導を行う。流通を科学するという視点から、最終的に修士論文作成の指導を行う。必要に応じて、多変量解析をはじめとする分析手法の学習の他、各種研究学会参加による理論面への反映やプロジェクトなどへの参加を通じて、実践面での学習も行う予定である。
	西島 博樹	本演習は、商業理論研究を主要テーマとする。商業存立根拠、商業機能、小売構造と動態、卸売構造と動態など、商業に関して理論的かつ具体的にアプローチしていくなかで、流通部門の動態を生み出す背景基盤やメカニズムについて考察する。事例研究として、小売企業の海外進出、サプライチェーン・マネジメント、地域商業とまちづくり、などを取り上げる。理論研究および事例研究を踏まえて、学会や研究会で報告し、最終的に修士論文作成に向けた指導を行う。
	朴 晟材	ロジスティクス、国際物流、SCMIに関連したテーマについて研究を行う。 具体的には、多くの企業において革新的なロジスティクスが企業戦略の一つとして組織的・体系的に展開されている状況を踏まえ、さらに高度化された国際物流、SCMIにおけるダイナミックな展開についての研究に取り組む。 演習では、研究を進めるのに必要な基礎知識に加え、研究トピックの選択の仕方、具体的な研究の進め方、分析手法等の修得を並行して進めながら、修士論文作成に備えた指導を行う。
	徐 涛	中国、日本、韓国の経済システムと国際流通システムの比較研究を行う。アジア経済危機と修復のメカニズム、各国の経済発展を中心に、開発経済学の視点から分析・考察を行う。なお、各国の消費財、特に生鮮農産物の流通を対象に、流通チャネルの諸問題の研究に取り組む。演習では、学生の関心に沿ったテーマ(例:生鮮品流通の変化と課題)で研究を指導し、文献学習、調査立案、結果分析を通じて修士論文作成を支援する。
	手嶋 恵美	「商品開発研究」の分野における学生の関心に沿った研究指導を行う。研究に必要な知識の習得、事例研究、データ収集および分析を行い、修士論文の執筆を指導する。 学生は実存する企業・商品から研究テーマを設定し、調査・分析・討議を通じて企業における商品開発の重要性や商品開発プロセス、商品戦略について学び、商品開発やマーケティングの実践力を身に付けることを目標とする。
	中川 隆	食料・農業・農村に関するテーマについて、ミクロ経済学や流通理論などをベースとした理論的・実証的研究を行う。食料の生産・流通・加工・消費の実態やフードシステムを構成する主体の役割や機能などを素材に、地域的・国際的視点から分析する。本演習では、食料・農業・農村の実態、経済学理論、統計解析についてバランスよく学び、各種研究会・学会で報告することを目指しながら、修士論文を完成させる指導を行う。

各種支援制度

昼夜開講制

- **栄養科学研究科**… 一部必修科目を第1.3.5土曜日や夜間に開講し、それ以外の科目は昼間と夜間の双方に開講しています。
- **教育学研究科**… 授業科目を昼間と夜間の双方に開講しています。
- **流通科学研究科**… 授業科目を昼間と夜間毎に隔年開講しています。

長期履修制度

職業を有している方、子育てや介護中の方など、標準修業年限(博士前期課程・修士課程は2年、博士後期課程は3年)での修学が困難な方のための制度です。標準修業年限の学費で修業年限を1～2年延長することができます。

※ 詳細については、教務部(TEL092-851-6742)までお問い合わせください。

特別研究費

大学院生が修士論文または博士論文を作成するための経費として、以下のとおり特別研究費が指導教員に付与され、その指導のもと助成を受けることができます。(助成範囲に制限あり)

- **栄養科学研究科 博士前期課程**… 200千円(年額)
博士後期課程… 280千円(年額) 別途学会旅費80千円あり
- **教育学研究科 修士課程**… 130千円(年額)
- **流通科学研究科 修士課程**… 130千円(年額)

※ 詳細については、教務部(TEL092-851-6742)までお問い合わせください。

教育訓練給付制度

本学大学院(全研究科 ※ただし、栄養科学研究科博士後期課程は除く)は厚生労働大臣より、一般教育訓練講座の指定を受けています。雇用保険の被保険者期間が3年以上(過去に給付制度を利用したことがない方は1年以上)あり、大学院修士課程(博士前期課程)を2年間で修了した方には、授業料等の一定の割合に相当する額(納付金(入学金、授業料)の20%、ただし上限10万円)の給付が受けられます(指定期間:令和8年4月1日～令和11年3月31日) ※左記期間は見込みであり、現在申請中です。

奨学金

■ 中村学園大学大学院奨学金

大学院生の研究を奨励し、社会に有為な人材の育成に資するため「中村学園大学大学院奨学金」が設けられています。本学(大学・短期大学部)卒業生を対象に入学金の全額が給付されます。(返還の義務なし)

■ 日本学生支援機構貸与奨学金

(独)日本学生支援機構による奨学金制度で、経済的理由により修学が困難であり、優れた学生に対し、学費として奨学金が貸与されます。毎年4月に募集しています。

■ 中村学園大学同窓会奨学金

中村学園大学同窓会による奨学金制度で、中村学園大学大学院(博士後期課程は除く)に進学する学業成績が優秀な中村学園大学生を対象とし、選考により採用者には200,000円が給付されます。(返還の義務なし)

■ 特別給付奨学金

自然災害による被災や破産、事故などにより生計を維持する者の家計が急変し、経済的理由により修学が困難になった学生に対し、選考により授業料の一部を給付します。

※ 詳細については、学生部(TEL092-851-2593)までお問い合わせください。

ティーチング・アシスタント(TA)

学部の実験実習等の教育的補助業務に従事することにより、将来教員・研究者になるための学習機会を提供します。またこれに対する給与の支給により、奨学に資することを目的としています。

リサーチ・アシスタント(RA)

若手研究者の養成・確保を促進するため、本学が行うプロジェクト等に優秀な大学院生を研究補助者として参画させ、研究活動の効果的な推進や若手研究者の研究遂行能力の育成を図ることを目的としています。(博士後期課程在籍者対象)

居住支援

本学大学院生は本学が所有する「別府校地東住宅(福岡市城南区別府5-6-2)」に入居を希望することができます。(家賃:月額20,000円(税込)、光熱水費別、食事の提供なし)詳しくは学生部(TEL092-851-2593)までお問い合わせください。

2026(令和8)年度 入学試験日程

秋期入試

研究科	入試の種類	出願期間	試験日	合格発表	入学手続締切
栄養科学研究科 (博士前期課程)	推薦入学選考 試験入学選考 社会人特別	令和7年 9月26日(金) ~ 10月6日(月)	令和7年 10月25日(土)	令和7年 11月5日(水)	入学金納付期日 令和7年 11月19日(水) 15時まで 授業料等納付期日 令和7年 11月27日(木) 15時まで
栄養科学研究科 (博士後期課程)	試験入学選考				
教育学研究科	推薦入学選考 試験入学選考 社会人特別				
流通科学研究科	推薦入学選考 試験入学選考 社会人特別 外国人留学生				

春期入試

研究科	入試の種類	出願期間	試験日	合格発表	入学手続締切
栄養科学研究科 (博士前期課程)	試験入学選考 社会人特別 外国人留学生	令和8年 1月7日(水) ~ 1月19日(月)	令和8年 2月14日(土)	令和8年 2月24日(火)	入学金および 授業料等納付期日 令和8年 3月9日(月) 15時まで
栄養科学研究科 (博士後期課程)	試験入学選考				
教育学研究科	試験入学選考 社会人特別				
流通科学研究科	試験入学選考 社会人特別 外国人留学生				

納付金関係

2026(令和8)年度入学金および学費

①入学時納付金

(単位:円)

区 分 費 目	栄養科学研究科		教育学研究科	流通科学研究科	フードビジネスプログラム	備 考
	博士前期	博士後期	修士課程	修士課程	修士課程	
入 学 金*	130,000	130,000	130,000	130,000	130,000	入学時のみ
授 業 料	290,000	290,000	290,000	260,000	225,000	
維持・充実費	110,000	110,000	70,000	50,000	50,000	
実験実習費	50,000	50,000	15,000	25,000	25,000	
学生災害保険	2,430	3,620	2,430	2,430	2,430	
入学時納付金計	582,430	583,620	507,430	467,430	432,430	

②2期(9月)納付金

授 業 料	290,000	290,000	290,000	260,000	225,000	
維持・充実費	110,000	110,000	70,000	50,000	50,000	
実験実習費	50,000	50,000	15,000	25,000	25,000	
1年次後期納付金合計	450,000	450,000	375,000	335,000	300,000	
初年度納付金合計	1,032,430	1,033,620	882,430	802,430	732,430	

※本学卒業生を対象に入学後、入学金の全額(130,000円)が給付されます。

施設・設備

大学内に研究施設を開設しています。

令和6(2024)年4月開設

フード&ヘルスイノベーションセンター

食と健康との関わりを科学し、地域社会へと還元

これまで食と健康に関する機関として、薬膳に関する共同研究を進める「薬膳科学研究所」、栄養科学の視点から健康増進を研究する「健康増進センター」、肥満症の治療や栄養支援を中心とする保険診療機関「栄養クリニック」がありました。これらに「フードテック部門」と「社会連携部門」を加えて再編。部門間で情報を共有し、共同研究を行います。さらに、地域の皆様に食・栄養の健康増進や治療および予防に対する有益な知見や情報を発信するなど、本学の教育・研究に資するとともに、食関連企業や地域社会、行政との産学官連携も推進していきます。



発達支援センター

子育てや子どもの発達への支援を通して、
学生の実践力を伸ばす

発達支援センターの活動は大きく二本柱から成り立っています。一つは「保育・教育支援部」で、本学のもつ豊かな保育・教育に関する知見を地域に還元することを通して子育て支援にあたるもの。もう一つは「発達臨床支援部」で、発達障がいの子どものもと、障がい児・障がい者への直接支援、子育てや子どもの発達に悩む家族や保育士・教員の支援を目的としたもの。同時に、発達に気がかりのある子どもの能力を伸ばすための教育方法を開発するための研究も行っています。



流通科学研究所

アジアの「食の流通」を主要研究テーマに、
その成果を地域に反映

流通科学研究所は、グローバル化・IT化など目まぐるしく環境が変化する社会のなかで、学術的・国際的なテーマで流通に係わる諸問題を調査・研究する機関です。

よって、本学の特性を生かした「食の流通」をテーマに、国内と中国・韓国・ASEAN諸国などのアジア地域および欧米を中心に活動しています。その研究成果は毎年開催している国際セミナーや地元企業や行政への提言等によって実社会に反映され、地域経済の発展に貢献しています。



施設・設備

気軽に利用できる行き届いた設備。

最先端の機器や豊富な書物、休憩スペースなど、学生目線に立った細やかな配慮が魅力です。

充実した環境の中で、より深い知識を身につけることができます。



大講義室

300席ある大講義室で講義や集会などに利用。165インチの大画面プロジェクターを備えており、福岡タワーや志賀島まで一望できます。



メディアセンター(図書館)

研究図書・雑誌の貸出だけでなく、学内外の文献検索やデータベース、電子ジャーナルといったオンラインサービスも利用できます。



情報処理センター

情報処理センターのほか、学内には200台以上のパソコンを設置。全学部・学科の学生が授業や個人で利用できます。



学園資料展示室

中村学園の創業者中村ハル先生の遺品や貴重な資料などを展示。教育者として真摯に生きてこられたハル先生の人柄がしのばれる展示内容です。



食育館

「栄養バランスがよくておいしい」と学生たちから人気の食堂。食事の自己管理能力や食育推進のための工夫もなされています。



カフェ&ベーカリー「アステックス」

学内でパンや軽食を販売する喫茶スペース。開放的な雰囲気の中、焼きたて絶品パンのほかに、コーヒーなども楽しめます。



丸善キャンパスショップ

食品、本、文具、日用品を販売。飲食できるスペースもあります。また映画鑑賞券、コピーや卒業袴レンタルなども取り扱っています。



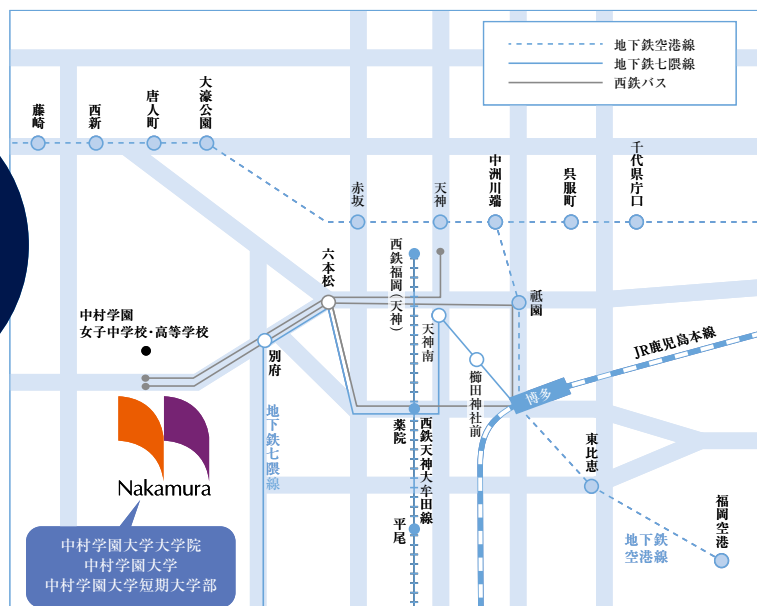
セミナーハウス「ほくさん」

佐賀県北山湖を望む自然豊かな環境の中にあり、体育館、研修室、ミーティングルーム、教室など様々な設備を兼ね備えた研修施設です。

施設全体の地図



アクセスマップ
**ACCESS
MAP**



アクセス



地下鉄七隈線 天神南駅 ↔ 別府駅 約 9 分
地下鉄七隈線 博多駅 ↔ 別府駅 約 14 分
地下鉄七隈線 薬院駅 ↔ 別府駅 約 7 分
地下鉄七隈線 別府駅1番出口から徒歩 1 分
西鉄バス 『中村大学前』下車通用門すぐ



中村学園大学大学院

入試広報部

〒814-0198 福岡県福岡市城南区別府5丁目7番1号

Tel. 092-851-2531 (代表) / 092-851-6762 (直通)

Fax. 092-851-2539 (直通)

E-mail. nyushi@nakamura-u.ac.jp

<https://www.nakamura-u.ac.jp/>

中村学園大学大学院

